

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	日 本 近 世 文 化 (Japanese Early Modern Culture)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	石 上 七 鞘								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : (近 世 文 化) 1. 江 戸 学 と は 何 か を 理 解 す る。 2. 江 戸 の 歴 史 と 文 化 に つ い て 学 び , 考 え る。 3. 「江 戸」 に 関 し て 主 体 的 に 考 え る 力 を 養 う。									
授 業 目 標 : 江 戸 の 風 俗 ・ 生 活 を 伝 え る 『絵 本 江 戸 風 俗 往 来』『都 風 俗 化 粧 伝』 を 購 読 し , い わ ゆ る 「江 戸 学」 の 出 発 点 と な る 知 識 の 整 理 を 試 み る と と も に , 史 料 収 集 方 法 や 活 用 方 法 の 基 礎 力 を 養 う こ と を 目 標 と す る 。 ま た , 日 本 近 代 史 を 学 ぶ う え で 重 要 な 資 料 ・ 文 献 な ど の 紹 介 も 行 う。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画 , 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 , 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス 江戸時代の文化について概説をする。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
2	江戸と上方について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
3	江戸の衣と住まいについて学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
4	江戸の食を学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
5	江戸の飢饉を知る。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
6	享保・寛政・天保の改革について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
7	江戸時代の交通について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
8	江戸時代の農業について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
9	江戸の年中行事について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
10	江戸の信仰、富士信仰について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
11	江戸の信仰、伊勢信仰について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
12	近世の宗教と学問 キリスト教について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
13	国学と国体について知る。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
14	江戸から明治へ、大政奉還について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
15	総括					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
教 本 : な し 。 プ リ ン ト 配 布 。					参 考 文 献 : 1. 石 上 七 鞘 『日 本 の 原 点』 マ イ ナ ビ 新 書 2. 『江 戸 学 事 典』 弘 文 堂				
成 績 評 価 の 方 法 , 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。 発 表 と レ ポ ー ト (50%) ・ 期 末 試 験 (50%)。 仔 細 は 授 業 時 に 明 示 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 予 習 ・ 復 習 を 行 う こ と 。 欠 席 を し な い こ と が 大 前 提 と な り ま す 。 最 後 ま で 取 り 組 み ま し ょ う 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 木 曜 日 昼 休 み 。 総 合 研 究 セ ン タ ー ( 3 号 館 7 階 , 3716)									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	日 本 近 世 文 化 (Japanese Early Modern Culture)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	伊 藤 高 雄								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : (近 世 文 化) 1. 江 戸 学 と は 何 か を 理 解 す る 。 2. 江 戸 の 歴 史 と 文 化 に つ い て 学 び 、 考 え る 。 3. 「江 戸」 に 関 し て 主 体 的 に 考 え る 力 を 養 う 。									
授 業 目 標 : 江 戸 の 風 俗 ・ 生 活 を 伝 え る 黄 表 紙 や 随 筆 な ど の 資 料 を 読 み 、 「江 戸 学」 の 出 発 点 と な る 知 識 の 整 理 を す る と と も に 、 史 料 の 収 集 方 法 や 活 用 方 法 を 学 び 、 江 戸 文 化 に つ い て 語 れ る よ う に す る 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス 江戸時代の文化について概説する。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
2	江戸と上方の文化について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
3	江戸時代の衣と住まいについて学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
4	江戸時代の食について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
5	江戸時代の饂飩について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
6	江戸時代の災害について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
7	江戸時代の交通について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
8	江戸時代の生業について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
9	江戸時代の年中行事について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
10	学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		演習	
11	学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		演習	
12	学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		演習	
13	学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		演習	
14	学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		演習	
15	まとめ					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
教 本 : なし。プリント配布。					参 考 文 献 : 『江戸学事典』 弘文堂				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。 授 業 参 加 状 況 等 (30%)、コ メ ン ト ・ カ ー ド の 提 出 (20%)、発 表 内 容 ・ 問 題 に 対 す る 習 熟 度 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 予 習 ・ 復 習 を 行 う こ と 。 欠 席 を し な い こ と が 大 前 提 と な り ま す 。 最 後 ま で 取 り 組 み ま し ょ う 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	日本芸能史 (Traditional Japanese Performing Art)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	伊藤 高雄								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 日本の芸能の歴史を古代から現代まで俯瞰して、個別の芸能についてその文化的意味を考える。									
授業目標： 日本の伝統芸能や民俗芸能の世界にふれて、人間文化としての芸能の役割を体感する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス。日本の芸能のあらしを学ぶ					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
2	日本古代の芸能 雅楽・神楽・催馬楽・琵琶楽					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
3	日本中世の芸能 散楽・田楽・猿楽・能楽					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
4	日本近世の芸能 人形浄瑠璃・文楽へ					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
5	日本近世の芸能 歌舞伎					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
6	語りもの世界 語部から舌耕芸へ					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
7	学生による発表 調べたい芸能					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		演習	
8	日本芸能史各論 1					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
9	日本芸能史各論 2					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
10	日本芸能史各論 3					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
11	日本芸能史各論 4					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
12	学生の発表を行う					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		演習	
13	学生の発表を行う					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		演習	
14	学生の発表を行う					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		演習	
15	まとめ					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
教本： なし。プリント配布。					参考文献： 折口信夫『日本芸能史六講』その他。授業中に指示する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20%）、コメント・カードの提出（30%）、発表内容、問題に対する習熟度（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 予習・復習をして休まずに出席すること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	日本芸能論 (Traditional Japanese Performing Art)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	伊藤 高雄								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 日本の芸能の世界を具体的に学び、その文化的意味について考える。									
授業目標： 芸能とは何か、具体的にかつ総合的に知識と経験を踏まえ、語れるようにする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス。日本の芸能とは何か、考える					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
2	芸能の発生の場はいかなるものか、考える					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
3	神楽という芸能とそのモチーフを考える					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
4	神を迎え、もてなす演劇について考える					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
5	芸能の基本構成について考える					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
6	演出の発生と展開について考える					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
7	ことほぎの芸能について考える					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
8	盆踊り・念仏踊りに関して考える					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
9	人形戯・文楽について考える					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
10	相撲と能狂言について考える					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
11	歌舞妓と歌舞伎について考える					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
12	学生の発表を行う					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		演習	
13	学生の発表を行う					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		演習	
14	学生の発表を行う					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		演習	
15	まとめ					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
教本： なし。プリント配布。					参考文献： 授業時に指示する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20%）、コメント・カードの提出（30%）、発表内容、問題に対する習熟度（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 具体的に芸能の現場に出かけてみて、自分の肌で感じる姿勢が特別の経験として人生に生きてきます。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	日本交流史 (History of Relations between Japan and Other Countries)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	安倍 宰								
履 修 条 件	前提科目	日本文化研究							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>沖縄文化研究を受けて、後期ではその範囲を宮古地域に限定して考察します。防衛問題の議論によくみられる「本土－沖縄」という二分法では見えにくい沖縄の姿を、宮古地域を中心にすることで違う見方ができるのではないだろうかという視点から授業を進めていきます。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>沖縄文化へのより深い理解</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	宮古文化と沖縄文化					事前：沖縄の島々を確認 事後：授業資料		講義 90分	
2	伊良部島の文化バリエーション					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
3	村落祭祀					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
4	シャーマニズム					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
5	世界観と歴史					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
6	民俗的小宇宙					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
7	本土文化と民俗文化					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
8	法と民俗文化					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
9	法と民俗文化 2					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
10	社会組織の変化：祭祀					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
11	社会組織の変化：家族					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
12	フィールド調査					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
13	フィールド調査 2					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
14	フィールド調査 3					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
15	まとめと復習					事前：なし 事後：なし		講義かレポート	
教本： 使用しません					参考文献： 授業内で紹介する。たくさん読んでください。				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（10%）、定期試験（70%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 私たちがいかに常識や良識にとらわれているか、心を真っ白にする努力をしてみましょう。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	日本古代史 (History of Ancient Japan)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	石上 七鞘								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 万葉の時代といえば、日本史の時代区分でいえば古代といえる。万葉集には、時代が判明している仁徳天皇から奈良時代末期までである。その時代の状況や文化を万葉集の歌を通して理解しながら、学生のプレゼンテーションを交えながら進める。									
授業目標： 万葉の時代と文化を理解する。時代背景としての宗教、政治、生活、民俗を理解する。また、万葉集の作家と作品について学ぶ。また作者未詳歌についても学び、それらの作品の背景を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	日本の古代史とは何かについて学ぶ。					事前：なし 事後：授業内容の整理		講義	
2	万葉集とは何かについて学ぶ。					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義	
3	三大部立（雑歌、相聞、挽歌）について学ぶ。					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義	
4	巻頭歌と最後の歌について学ぶ。					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義	
5	額田王について知る。					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義と演習	
6	柿本人麻呂について知る。					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義と演習	
7	山部赤人について知る。					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義と演習	
8	高市黒人について知る。					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義と演習	
9	山上憶良について知る。					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義と演習	
10	大伴旅人について知る。					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義と演習	
11	大伴家持と万葉集の成立について学ぶ。					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義と演習	
12	東歌・防人歌・伝説歌について学ぶ。					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義と演習	
13	学生のプレゼンを行う。					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		演習	
14	学生のプレゼンを行う。					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		演習	
15	纏めをする。					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義	
教本： プリント配布					参考文献： 授業時に紹介				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート・発表等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 必ず出席すること。									
オフィスアワー： 木曜日昼休み。総合研究センター（3号館7階、3716）									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	日本語 I (Japanese Language I)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	白石 佳和								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	留学生							
授業概要： 大学での勉学・生活に必要な日本語力を総合的に身につけるために、「聞く」「話す」「読む」「書く」の活動を行う。 受講学生の状況や希望に応じて、どのような練習に比重を置くかを決める。									
授業目標： 1 大学の講義が理解できる。 2 大学生活において友人、教職員、地域の人々と日常的なやりとりができる。 3 書くことに慣れる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	オリエンテーションと自己紹介				事前：学びたいことを考える 事後：学習環境の整備		講義30分、 グループワーク60分		
2	動画教材を使った活動①				事前：選んだニュースの要約 事後：振り返り		聴解活動60分、まとめ30分		
3	動画教材を使った活動②				事前：選んだニュースの要約 事後：振り返り		聴解活動60分、まとめ30分		
4	動画教材を使った活動③				事前：選んだニュースの要約 事後：振り返り		聴解活動60分、まとめ30分		
5	食べ物・飲み物の歴史① 読解				事前：選んだニュースの要約 事後：振り返り		読解活動40分、グループ ワーク30分、発表20分		
6	食べ物・飲み物の歴史② 聴解				事前：選んだニュースの要約 事後：振り返り		聴解活動40分、グループ ワーク30分、発表20分		
7	食べ物・飲み物の歴史③ プレゼン準備				事前：選んだニュースの要約 事後：振り返り		個別指導60分、ミニ講義30分		
8	食べ物・飲み物の歴史④ プレゼン準備				事前：選んだニュースの要約 事後：振り返り		個別指導60分、ミニ講義30分		
9	食べ物・飲み物の歴史⑤ 発表				事前：選んだニュースの要約 事後：振り返り		発表60分、議論・振り返り30分		
10	食べ物・飲み物の歴史⑥ 振り返り				事前：選んだニュースの要約 事後：振り返り		ピアレビュー30分、まとめ60分		
11	生き物を守ろう① 読解				事前：選んだニュースの要約 事後：振り返り		読解活動40分、グループ ワーク30分、発表20分		
12	生き物を守ろう② 聴解				事前：選んだニュースの要約 事後：振り返り		聴解活動40分、グループ ワーク30分、発表20分		
13	生き物を守ろう③ レポート準備				事前：選んだニュースの要約 事後：振り返り		個別指導60分、ミニ講義30分		
14	生き物を守ろう③ レポート ピアレビュー				事前：選んだニュースの要約 事後：振り返り		ピアレビュー60分、まとめ30分		
15	半期全体を振り返り、ポートフォリオを作成する				事前：選んだニュースの要約 事後：振り返り		講義20分、タスク50分、 発表20分		
教本： 授業で伝える。					参考文献： 授業で紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20%）、発表（40%）、レポート（40%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 授業で履修する日本語科目は週1時間しかありません。授業で学んだことを積極的に授業外で使い身につけましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習	
授業科目(英文)	日本語Ⅱ (Japanese Language II)						科目分類	基礎科目		
担 当 教 員	白石 佳和									
履 修 条 件	前提科目	日本語Ⅰ								
	その他	留学生								
授業概要： 大学での勉学・生活に必要な日本語力を総合的に身につけるために、「聞く」「話す」「読む」「書く」の活動を行う。 受講学生の状況や希望に応じて、どのような練習に比重を置くかを決める。										
授業目標： 1 大学の講義を理解し議論できる。 2 身の周りの人とアカデミックなやりとりができる。 3 書くことに慣れる。										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
○			◎							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態			
1	オリエンテーション				事前：学びたいことを考える 事後：学習環境の整備		講義30分、 グループワーク60分			
2	気になるニホン①				事前：担当短歌の予習 事後：振り返りとまとめ		発表60分、議論30分			
3	気になるニホン②				事前：担当短歌の予習 事後：振り返りとまとめ		発表60分、議論30分			
4	気になるニホン③				事前：担当短歌の予習 事後：振り返りとまとめ		発表60分、議論30分			
5	日本各地の魅力① 読解				事前：担当短歌の予習 事後：振り返りとまとめ		読解活動40分、グループ ワーク30分、発表20分			
6	日本各地の魅力② 聴解				事前：担当短歌の予習 事後：振り返りとまとめ		聴解活動40分、グループ ワーク30分、発表20分			
7	日本各地の魅力③ プレゼン準備				事前：担当短歌の予習 事後：振り返りとまとめ		個別指導60分、ミニ講義30分			
8	日本各地の魅力④ プレゼン準備				事前：担当短歌の予習 事後：振り返りとまとめ		個別指導60分、ミニ講義30分			
9	日本各地の魅力⑤ 発表				事前：担当短歌の予習 事後：振り返りとまとめ		発表60分、議論・振り返り30分			
10	日本各地の魅力⑥ 振り返り				事前：担当短歌の予習 事後：振り返りとまとめ		ピアレビュー30分、まとめ60分			
11	俳句・ハイクを楽しもう①				事前：担当短歌の予習 事後：振り返りとまとめ		読解活動40分、グループ ワーク30分、発表20分			
12	俳句・ハイクを楽しもう②				事前：担当短歌の予習 事後：振り返りとまとめ		読解活動40分、グループ ワーク30分、発表20分			
13	俳句・ハイクを楽しもう③				事前：担当短歌の予習 事後：振り返りとまとめ		読解活動40分、グループ ワーク30分、発表20分			
14	俳句・ハイクを楽しもう④				事前：担当短歌の予習 事後：振り返りとまとめ		読解活動40分、グループ ワーク30分、発表20分			
15	半期全体を振り返り、ポートフォリオを作成する				事前：成果物を整理する 事後：レポートの作成		講義20分、タスク50分、 発表20分			
教本： 授業で伝える。					参考文献： 授業で紹介する。					
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20%）、提出物（40%）、レポート（40%）等で総合評価する。										
学生へのアドバイス： 授業で履修する日本語科目は週1時間しかありません。授業で学んだことを積極的に授業外で使い身につけましょう。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習	
授業科目(英文)	日本語Ⅲ (Japanese Language Ⅲ)						科目分類	基礎科目		
担 当 教 員	白石 佳和									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	その他	留学生								
授業概要： タイトル「アートな日本語」、美術や文学を題材に日本語を学ぶ。 大学での勉学・生活に必要な日本語力を総合的に身につけるために、「聞く」「話す」「読む」「書く」の活動を行う。										
授業目標： 1 アートを通じて自国・日本。他国を理解し、議論ができる。 2 プレゼンを行ったりレポートを作成したりすることができる。										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
			◎			○				
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	オリエンテーション					事前：学びたいことを考える 事後：学習環境の整備		講義30分、 グループワーク 60分		
2	日本美術についてのエッセイを読む					事前：ニュースを調べる 事後：振り返りとまとめ		聴解活動 50分、タスク 20分、 議論 20分		
3	自分の国の絵の紹介（発表準備）					事前：ニュースを調べる 事後：振り返りとまとめ		読解活動 40分、グループ ワーク 30分、発表 20分		
4	自分の国の絵の紹介（発表準備）					事前：ニュースを調べる 事後：振り返りとまとめ		聴解活動 50分、タスク 20分、 議論 20分		
5	自分の国の絵の紹介（発表）					事前：ニュースを調べる 事後：振り返りとまとめ		読解活動 40分、グループ ワーク 30分、発表 20分		
6	世界文学を読む①					事前：ニュースを調べる 事後：振り返りとまとめ		聴解活動 50分、タスク 20分、 議論 20分		
7	世界文学を読む②					事前：ニュースを調べる 事後：振り返りとまとめ		読解活動 40分、グループ ワーク 30分、発表 20分		
8	自分の国の文学の紹介（発表準備）					事前：ニュースを調べる 事後：振り返りとまとめ		聴解活動 50分、タスク 20分、 議論 20分		
9	自分の国の文学の紹介（発表準備）					事前：ニュースを調べる 事後：振り返りとまとめ		読解活動 40分、タスク 30分、 発表 20分		
10	自分の国の文学の紹介（発表）					事前：ニュースを調べる 事後：振り返りとまとめ		聴解活動 50分、タスク 20分、 議論 20分		
11	自分の国の文学の紹介（発表）					事前：ニュースを調べる 事後：振り返りとまとめ		読解活動 40分、タスク 30分、 発表 20分		
12	対話型鑑賞①+日本人ゲスト授業					事前：ニュースを調べる 事後：振り返りとまとめ		聴解活動 50分、タスク 20分、 議論 20分		
13	対話型鑑賞②					事前：ニュースを調べる 事後：振り返りとまとめ		読解活動 40分、タスク 30分、 発表 20分		
14	対話型鑑賞③					事前：ニュースを調べる 事後：振り返りとまとめ		聴解活動 50分、タスク 20分、 議論 20分		
15	半期全体を振り返り、ポートフォリオを作成する					事前：ニュースを調べる 事後：レポートの作成		講義 20分、タスク 50分、 発表 20分		
教本： 授業で伝える。					参考文献： 授業で紹介する。					
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20%）、プレゼンテーション2回（40%）、レポート（40%）等で総合評価する。										
学生へのアドバイス： 授業で履修する日本語科目は週1時間しかありません。授業で学んだことを積極的に授業外で使い身につけましょう。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習	
授業科目(英文)	日本語Ⅳ (Japanese Language Ⅳ)						科目分類	基礎科目		
担 当 教 員	白石 佳和									
履 修 条 件	前提科目	日本語Ⅲ								
	その他	留学生								
授業概要： タイトル「詩から学ぶアジアと世界」 大学での勉学・生活に必要な日本語力を総合的に身につけるために、「聞く」「話す」「読む」「書く」の活動を行う。										
授業目標： 1 詩を深く理解し、議論ができる。 2 プレゼンを行ったりレポートを作成したりすることができる。										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
			◎			○				
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	オリエンテーション					事前：短歌1首調べる 事後：学習環境の整備		講義30分、 グループワーク60分		
2	日本の詩の歴史					事前：短歌1首調べる 事後：振り返りとまとめ		聴解活動50分、タスク20分、 議論20分		
3	俳句の歴史					事前：短歌1首調べる 事後：振り返りとまとめ		読解活動40分、グループ ワーク30分、発表20分		
4	世界のHAIKU、自分の国のHAIKU					事前：短歌1首調べる 事後：振り返りとまとめ		聴解活動50分、タスク20分、 議論20分		
5	自分の国の詩の歴史（発表準備）					事前：短歌1首調べる 事後：振り返りとまとめ		読解活動40分、グループ ワーク30分、発表20分		
6	自分の国の詩の歴史（発表）					事前：短歌1首調べる 事後：振り返りとまとめ		聴解活動50分、タスク20分、 議論20分		
7	自分の国の詩の歴史（発表）					事前：短歌1首調べる 事後：振り返りとまとめ		読解活動40分、グループ ワーク30分、発表20分		
8	自分の国の詩人と詩作品（発表準備）					事前：短歌1首調べる 事後：振り返りとまとめ		聴解活動50分、タスク20分、 議論20分		
9	自分の国の詩人と詩作品（発表）					事前：短歌1首調べる 事後：振り返りとまとめ		読解活動40分、タスク30分、 発表20分		
10	自分の国の詩人と詩作品（発表）					事前：短歌1首調べる 事後：振り返りとまとめ		聴解活動50分、タスク20分、 議論20分		
11	日本人ゲスト授業：世界の詩を読む					事前：短歌1首調べる 事後：振り返りとまとめ		読解活動40分、タスク30分、 発表20分		
12	トランスリンガル俳句1：俳句・HAIKUの鑑賞					事前：短歌1首調べる 事後：振り返りとまとめ		聴解活動50分、タスク20分、 議論20分		
13	トランスリンガル俳句2：季語ドーナツを使った創作活動					事前：短歌1首調べる 事後：振り返りとまとめ		読解活動40分、タスク30分、 発表20分		
14	トランスリンガル俳句3：句会とふりかえり					事前：短歌1首調べる 事後：振り返りとまとめ		聴解活動50分、タスク20分、 議論20分		
15	半期全体を振り返り、ポートフォリオを作成する					事前：成果物を整理する 事後：レポートの作成		講義20分、タスク50分、 発表20分		
教本： 授業で伝える。					参考文献： 授業で紹介する。					
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20%）、プレゼンテーション2回（40%）、レポート（40%）等で総合評価する。										
学生へのアドバイス： 授業で履修する日本語科目は週1時間しかありません。授業で学んだことを積極的に授業外で使い身につけましょう。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	日本語概論 (Introduction to Japanese Linguistics)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	澤田 帆奈美								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 日本語の使用例をもとに、日本語の音声・音韻、語彙、文法、文字・表記などについて考察する。また、日常・個別の言語事象を全体の体系と関係づけて考え、日本語に対する関心を深める。									
授業目標： 1. 日本語がもつ規則性・体系性に気づく。 2. 日本語を構造的に理解・把握する。 3. 言語としての日本語に対する関心を深める。 4. 中学校・高等学校国語教員志望者の教材研究に必要な知識と方法を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション 世界の中の日本語について考える					事前：世界の言語を調べる 事後：言語の系統を確認		講義 60分 演習 30分	
2	音声・音韻1（調音、子音の分類、母音の分類）について学ぶ					事前：言語音について調べる 事後：子音・母音の整理		講義 60分 演習 30分	
3	音声・音韻2（音声学と音韻論、日本語の音素、拍の体系）について学ぶ					事前：音韻論について調べる 事後：音韻の整理		講義 60分 演習 30分	
4	音声・音韻3（超音節素－アクセント、イントネーション、プロミネンス）について学ぶ					事前：超音節素について予習 事後：超音節素の特徴を復習		講義 60分 演習 30分	
5	語彙1（意味の体系、語種）について学ぶ					事前：語種について調べる 事後：プリント問題		講義 60分 演習 30分	
6	語彙2（語構成）について学ぶ					事前：語構成について調べる 事後：プリント問題		講義 60分 演習 30分	
7	文法1（単語と文、文の組み立て）について学ぶ					事前：プリントを読んでくる 事後：プリント問題		講義 60分 演習 30分	
8	文法2（単語の形〈形態論〉）について学ぶ					事前：プリント活用表の完成 事後：語形変化の確認		講義 60分 演習 30分	
9	文法3（文の構造〈統語論〉）について学ぶ					事前：プリントを読んでくる 事後：モダリティの確認		講義 60分 演習 30分	
10	文字・表記1（文字の役割、漢字・かな・ローマ字）について学ぶ					事前：文字について調べる 事後：文字のなりたちの復習		講義 60分 演習 30分	
11	文字・表記2（かなづかい、送りかな、記号類）について学ぶ					事前：プリントを読んでくる 事後：かなづかいの確認		講義 60分 演習 30分	
12	社会言語学1（位相論、職業差・世代差・性差・場面差と言葉）について学ぶ					事前：言葉遣いを振り返る 事後：位相語を確認する		講義 60分 演習 30分	
13	社会言語学2（方言）について学ぶ					事前：日本語の方言を調べる 事後：プリントでの復習		講義 60分 演習 30分	
14	待遇表現（待遇表現の種類・敬語）について学ぶ					事前：待遇表現を調べる 事後：待遇表現の整理		講義 60分 演習 30分	
15	まとめ 日本語を構造的にみる					事前：言語の構造を考える 事後：試験に備える		講義 60分 演習 30分	
教本： 沖森卓也他『図解日本語』三省堂 ￥2,160 その他、資料と書き込み用プリントを配付する。					参考文献： 日野資成『ベーシック現代の日本語学』ひつじ書房 ￥1,836				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（35%）、定期試験（45%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 自分自身が使っている日本語を考察の対象とする授業です。多くの新しい発見があるでしょう。日本語に対する知的興味・おもしろさを感じることができると思います。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習																																																																						
授業科目(英文)	日本語学(音声・音韻)(Japanese Linguistics (Phonetics and Phonology))						科目分類	専門科目																																																																							
担 当 教 員	松浦 恵津子																																																																														
履 修 条 件	前提科目	日本語概論																																																																													
	その他	なし																																																																													
<p>授業概要：</p> <p>私たちは、日本語の音、たとえば「ア」「カ」「サ」「タ」……など、それぞれをどのように作って発音しているのだろうか。この授業では、それぞれの音の発音のしくみを学ぶ。また、日本語・英語・中国語など、言語によって区別する音が異なるが、日本語はどの音を区別し、どの音を区別しないのかについても考える。</p> <p>授業目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代日本語の音声をもつ特徴を理解し、それを体系的に整理できるようになる。</li> <li>2. 中学校・高等学校国語教員志望者、日本語教員志望者の教材研究に必要な知識と方法を身につける。</li> </ol> <p>カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）</p> <table border="1"> <tr> <td>知識・技能の習得</td> <td>思考力・判断力・表現力の育成</td> <td>学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td>◎</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </table> <p>授業計画、事前学習・事後学習、形式</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>授業回数</th> <th>授業内容及び計画（詳細に記入）</th> <th>事前・事後学習（学習課題）</th> <th>授業形態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 五十音図とその拡大表の理解</td> <td>事前：シラバスを読んでくる 事後：プリントの確認</td> <td>オリ 30分 講義 30分 問題 30分</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>話し言葉の語形の特徴を、書き言葉との比較でとらえる。</td> <td>事前：話し言葉と書き言葉の違い 事後：プリントの確認</td> <td>講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>アクセント1 日本語のアクセントの特徴を考える。</td> <td>事前：アクセントについて調べる 事後：プリントの確認</td> <td>講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>アクセント2 アクセントの式と型を理解する。</td> <td>事前：アクセントの式と型とは 事後：プリントの確認</td> <td>講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>イントネーション、プロミネンス、ポーズについて考える。</td> <td>事前：イントネーションとは 事後：プリントの確認</td> <td>講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>日本語の子音1 音声器官と、破裂音・摩擦音、声帯振動の有無について理解する。</td> <td>事前：子音とは 事後：プリントの確認</td> <td>講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>日本語の子音2 破裂音・鼻音・弾音、拗音について理解する。</td> <td>事前：子音の分類の確認 事後：プリントの確認</td> <td>講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>日本語の子音3 五十音図の各行の子音について考える。</td> <td>事前：五十音図の各行の音声表記 事後：プリントの確認</td> <td>講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>日本語の子音4 子音のまとめと確認問題</td> <td>事前：日本語の子音全体の確認 事後：プリントの確認</td> <td>講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>日本語の母音について理解する。</td> <td>事前：母音とは 事後：プリントの確認</td> <td>講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>音韻論1 音声学と音韻論の違いを理解する 特殊拍の異音</td> <td>事前：音声学・音韻論とは 事後：プリントの確認</td> <td>講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>音韻論2 日本語の音素について考える。</td> <td>事前：日本語の音素について 事後：プリントの確認</td> <td>講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>音節構造について考える。</td> <td>事前：日本語の音節とは 事後：プリントの確認</td> <td>講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>期末試験に備えて練習問題を解く。</td> <td>事前：プリント・ノートの確認 事後：プリントの確認</td> <td>練習問題・考察 90分</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>事前：質問・確認事項の洗い出し 事後：試験準備</td> <td>質疑応答</td> </tr> </tbody> </table> <p>教本：プリントを配付する。</p> <p>参考文献：松崎寛ほか(2018)『日本語教育 よくわかる音声』アルク ￥2,200</p> <p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等(15%)、提出物等(40%)、定期試験(45%)等で総合評価する。</p> <p>学生へのアドバイス： 私たちが毎日聞いたり発したりしている言語の音について考えます。精巧な発音のしくみを知って驚くこともあるでしょう。</p> <p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養	◎	○		授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）	事前・事後学習（学習課題）	授業形態	1	オリエンテーション 五十音図とその拡大表の理解	事前：シラバスを読んでくる 事後：プリントの確認	オリ 30分 講義 30分 問題 30分	2	話し言葉の語形の特徴を、書き言葉との比較でとらえる。	事前：話し言葉と書き言葉の違い 事後：プリントの確認	講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分	3	アクセント1 日本語のアクセントの特徴を考える。	事前：アクセントについて調べる 事後：プリントの確認	講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分	4	アクセント2 アクセントの式と型を理解する。	事前：アクセントの式と型とは 事後：プリントの確認	講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分	5	イントネーション、プロミネンス、ポーズについて考える。	事前：イントネーションとは 事後：プリントの確認	講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分	6	日本語の子音1 音声器官と、破裂音・摩擦音、声帯振動の有無について理解する。	事前：子音とは 事後：プリントの確認	講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分	7	日本語の子音2 破裂音・鼻音・弾音、拗音について理解する。	事前：子音の分類の確認 事後：プリントの確認	講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分	8	日本語の子音3 五十音図の各行の子音について考える。	事前：五十音図の各行の音声表記 事後：プリントの確認	講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分	9	日本語の子音4 子音のまとめと確認問題	事前：日本語の子音全体の確認 事後：プリントの確認	講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分	10	日本語の母音について理解する。	事前：母音とは 事後：プリントの確認	講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分	11	音韻論1 音声学と音韻論の違いを理解する 特殊拍の異音	事前：音声学・音韻論とは 事後：プリントの確認	講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分	12	音韻論2 日本語の音素について考える。	事前：日本語の音素について 事後：プリントの確認	講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分	13	音節構造について考える。	事前：日本語の音節とは 事後：プリントの確認	講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分	14	期末試験に備えて練習問題を解く。	事前：プリント・ノートの確認 事後：プリントの確認	練習問題・考察 90分	15	まとめ	事前：質問・確認事項の洗い出し 事後：試験準備	質疑応答
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養																																																																													
◎	○																																																																														
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）	事前・事後学習（学習課題）	授業形態																																																																												
1	オリエンテーション 五十音図とその拡大表の理解	事前：シラバスを読んでくる 事後：プリントの確認	オリ 30分 講義 30分 問題 30分																																																																												
2	話し言葉の語形の特徴を、書き言葉との比較でとらえる。	事前：話し言葉と書き言葉の違い 事後：プリントの確認	講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分																																																																												
3	アクセント1 日本語のアクセントの特徴を考える。	事前：アクセントについて調べる 事後：プリントの確認	講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分																																																																												
4	アクセント2 アクセントの式と型を理解する。	事前：アクセントの式と型とは 事後：プリントの確認	講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分																																																																												
5	イントネーション、プロミネンス、ポーズについて考える。	事前：イントネーションとは 事後：プリントの確認	講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分																																																																												
6	日本語の子音1 音声器官と、破裂音・摩擦音、声帯振動の有無について理解する。	事前：子音とは 事後：プリントの確認	講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分																																																																												
7	日本語の子音2 破裂音・鼻音・弾音、拗音について理解する。	事前：子音の分類の確認 事後：プリントの確認	講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分																																																																												
8	日本語の子音3 五十音図の各行の子音について考える。	事前：五十音図の各行の音声表記 事後：プリントの確認	講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分																																																																												
9	日本語の子音4 子音のまとめと確認問題	事前：日本語の子音全体の確認 事後：プリントの確認	講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分																																																																												
10	日本語の母音について理解する。	事前：母音とは 事後：プリントの確認	講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分																																																																												
11	音韻論1 音声学と音韻論の違いを理解する 特殊拍の異音	事前：音声学・音韻論とは 事後：プリントの確認	講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分																																																																												
12	音韻論2 日本語の音素について考える。	事前：日本語の音素について 事後：プリントの確認	講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分																																																																												
13	音節構造について考える。	事前：日本語の音節とは 事後：プリントの確認	講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分																																																																												
14	期末試験に備えて練習問題を解く。	事前：プリント・ノートの確認 事後：プリントの確認	練習問題・考察 90分																																																																												
15	まとめ	事前：質問・確認事項の洗い出し 事後：試験準備	質疑応答																																																																												

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	日 本 語 学 (語 彙) (Japanese Linguistics (Lexicology))						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	松 浦 恵 津 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	日 本 語 概 論							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 語 彙 について、体 系 性 ・ 量 ・ 語 形 ・ 語 種 ・ 意 味 などの 点 から 考 え、分 析 する 方 法 を 学 ぶ。									
授 業 目 標 : 1. 日 本 語 の 語 彙 の 特 質 を 理 解 し、客 観 的 に 分 析 する 方 法 を 身 に つ け る。 2. 中 学 校 ・ 高 等 学 校 国 語 教 員 志 望 者、日 本 語 教 員 志 望 者 の 教 材 研 究 に 必 要 な 知 識 と 方 法 を 身 に つ け る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション 語彙の体系1：語彙の体系の具体例を見る。					事前：シラバスを読んでくる 事後：語彙の体系の具体例の復習		オリ 30分、講義 40分、 考察 20分	
2	語彙の体系2：語彙の体系性について考える。					事前：配付プリントの熟読 事後：練習問題の復習		講義 30分、考察と練習 問題 60分	
3	語彙と語彙量：量的調査の方法と目的を知る。					事前：異なり語数と延べ語数 事後：練習問題の復習		講義 50分、考察と練習 問題 40分	
4	語と語形1：どの単位を1単語とするかを考える。1単語の長さや、語種による語形的な特徴を知る。					事前：和語の語形について調べる 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 50分、考察と練習 問題 40分	
5	語と語形2：同音・同訓の語、語形のゆれについて考える。					事前：配付プリントの熟読 事後：練習問題の復習		講義 50分、考察と練習 問題 40分	
6	語種1：日本語の語彙について、各単語がどこから来たかによる分類を考える。					事前：借用語について調べる 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 50分、考察と練習 問題 40分	
7	語種2：和語・漢語・外来語・混種語を見分け、その特徴が説明できるようになる。					事前：配付プリントの熟読 事後：練習問題の復習		講義 50分、考察と練習 問題 40分	
8	語構成1：単純語・合成語（複合語・派生語・畳語）の構成について知り、例をあげて説明することができる。					事前：日本語の語構成について 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 50分、考察と練習 問題 40分	
9	語構成2：それぞれの複合語や派生語が、どのような品詞から成り立っているかについて考える。					事前：配付プリントの練習問題 事後：練習問題の復習		講義 50分、考察と練習 問題 40分	
10	語の意味1：単義語と多義語、明示の意味と副次的意味について考える。					事前：明示の意味と副次的意味 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 50分、考察と練習 問題 40分	
11	語の意味2：類義語と対義語、カテゴリーカルな意味について考える。					事前：配付プリントの熟読 事後：練習問題の復習		講義 50分、考察と練習 問題 40分	
12	語彙調査練習：ある文章の一節を使って、語種ごとに異なり語数と延べ語数を調べる					事前：なし 事後：語彙調査練習を完成させる		語彙調査練習	
13	オノマトペ1：オノマトペとは 他の語彙との違い 各音のもつ印象 オノマトペの語形					事前：擬声語・擬態語とは 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 50分、考察と練習 問題 40分	
14	オノマトペ2：人の気持ちやようす・性格を表すもの、ものようすや痛みを表すもの、その他 文学作品の中のオノマトペ 世界のオノマトペ					事前：配付プリントの熟読 事後：練習問題の復習		講義 50分、考察と練習 問題 40分	
15	まとめ					事前：質問・確認事項の洗い出し 事後：レポート作成		講義 30分、 質疑応答 60分	
教 本 : プリントを配付する。									
参 考 文 献 : 秋元美晴 (2010) 『日本語教育能力検定試験に合格するための語彙12』アルク ¥2,160									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 する。 授 業 参 加 状 況 等 (20%)、小 テ ス ト ・ 提 出 物 等 (35%)、レ ポ ー ト (45%) 等 で 総 合 評 価 する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 私 たち が 日 常 使 っ て いる 身 近 な 日 本 語 の 語 彙 について 学 び ます。語 の 形 ・ 構 成 ・ 出 自 ・ 意 味 などに つ いて 考 え ます。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	日本語学 (待遇表現) (Japanese Linguistics (Attitudinal Expressions))						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	松浦 恵津子								
履 修 条 件	前提科目	日本語概論 日本語学 (文法)							
	その他	なし							
授業概要： ・待遇表現に関する資料を読み、敬語・軽卑語・尊大語、ボライトネス、配慮表現、婉曲・間接表現について考える。 ・待遇表現の使用例を機能・適切性の点から分析する。 ・待遇表現を使う練習も行う。									
授業目標： 1. 待遇表現の意味・種類・仕組みや、待遇表現の使い分けにかかわる要因を理解する。 2. 場面に合わせて適切な待遇表現を使うことができるようになる。 3. 中学校・高等学校国語教員志望者、日本語教員志望者の教材研究に必要な知識と方法を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	オリエンテーション 待遇表現とは何か、待遇の意味について考える。					事前：シラバスを読んでくる 事後：プリントの確認		オリ 30分 講義 30分 考察 30分	
2	「現代社会における敬意表現」について考える。					事前：敬意表現とは 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分	
3	敬語① 敬語についての基本的な考え方を理解する。					事前：敬語の種類を調べる 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分	
4	敬語② 敬語の語形や語彙を確認する。					事前：練習問題 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分	
5	敬語③ 「敬語の指針」を読んで、敬語に対する考え方を理解する。					事前：「敬語の指針」に目を通す 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分	
6	敬語④ 敬語のまとめ 敬語を使った会話練習					事前：敬語の復習 事後：プリントの確認		講義 20～30分 練習・考察 70～60分	
7	ボライトネス① ポジティブボライトネスとネガティブボライトネスについて理解し、例をあげて説明できるようにする。					事前：ボライトネスについて調べる 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分	
8	ボライトネス② ボライトネスのストラテジー：どのような表現を用いてそれぞれのボライトネスが表されるかを学ぶ。					事前：配布プリントの用例を見る 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分	
9	配慮表現について学び、適切な場面で使えるようにする。					事前：配慮表現とは 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分	
10	人称代名詞・呼称と待遇表現 呼称にどのような待遇意図がかかわっているかを学ぶ。					事前：日本語の人称代名詞について 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分	
11	終助詞と待遇表現/ボライトネス 終助詞に現れる待遇性について考える。					事前：終助詞について調べる 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分	
12	待遇表現の使い分けにかかわる要因(社会的要因、心理的要因)について考える。					事前：要因として何が考えられるか 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分	
13	待遇表現の使用例を機能・適切性の点から分析するー発表① Aグループ					事前：発表準備 事後：発表結果の整理		発表と質疑応答	
14	待遇表現の使用例を機能・適切性の点から分析するー発表② Bグループ					事前：発表準備 事後：発表結果の整理		発表と質疑応答	
15	まとめ 自らの待遇表現の使用を振り返る。					事前：自分の待遇表現使用を考える 事後：レポートをまとめる		質疑応答	
教本： 資料と課題プリントを配付する。					参考文献： 文化審議会答申(2007)「敬語の指針」				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等(30%)、発表・提出物等(30%)、レポート(40%)等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 待遇表現、配慮表現は、さまざまなコミュニケーションの中で必ず見られるものです。特に社会人になったときに、適切な使用が求められます。そのことに気づくだけでも、自分自身のコミュニケーションのしかたが変わってきます。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	日本語学(文字)(Japanese Linguistics (Literature))						科目分類	専門科目	
担当教員	澤田 帆奈美								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 文字に関する知識、漢字に関する知識を深める。日本語において、漢字という文字は、どのような存在なのかを、履修者自らに考えてもらう。漢字力・語彙力を高めることも行なうが、ただ難しい漢字・語彙を覚えるのではなく、今後、日本語のなかで、どのように漢字を使っていくべきなのかを各自考える。									
授業目標： 1. 専門的研究や、就労時に必要な語彙を理解し、表記する漢字の書写能力を向上させる。 2. 中学校・高等学校国語教員志望者の教材研究に必要な知識と方法を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)		授業形態	
1	オリエンテーション(授業の進め方) 文字のはなし 文字の発展1					事前: シラバスを読んでくる 事後: 復習・ノート整理		講義 40分 演習 50分	
2	文字のはなし 文字の発展2					事前: テキストの読み・読みタスク 事後: 復習・ノート整理		講義 40分 演習 50分	
3	漢字のよみ 音と訓 重箱読み・湯桶読み 古代日本の文字					事前: テキストの読み・読みタスク 事後: 復習・次週小テスト準備		講義 40分 演習 50分	
4	漢字のなりたち1 かたどり文字 象形文字 指事文字 漢字のおこり					事前: テキストの読み・読みタスク 事後: 復習・次週小テスト準備		講義 40分 演習 50分	
5	漢字のなりたち2 あわせ文字 会意文字 形声文字 漢字の発展					事前: テキストの読み・読みタスク 事後: 復習・次週の小テスト準備		講義 40分 演習 50分	
6	漢字のくみため 現代の漢字のくみため 国字のはなし					事前: テキストの読み・読みタスク 事後: 復習・次週小テスト準備		講義 40分 演習 50分	
7	漢字の音1 同音異字					事前: テキストの読み・読みタスク 事後: 復習・次週小テスト準備		講義 40分 演習 50分	
8	漢音の音2 漢音と呉音 日本語の漢字音					事前: テキストの読み・読みタスク 事後: 復習・次週小テスト準備		講義 40分 演習 50分	
9	漢字の訓 同訓異字 地名・人名のよみ方					事前: テキストの読み・読みタスク 事後: 復習・次週小テスト準備		講義 40分 演習 50分	
10	漢字の意味 現代の漢字の意味					事前: テキスト・資料の読み 事後: 復習・ノートまとめ		講義(30分) 討論・演習(60分)	
11	漢字のつかい方(かな書きか漢字か) おくりがな 日本の文章の変遷					事前: テキストの読み・読みタスク 事後: 復習・プリント問題		講義 40分 演習 50分	
12	現代の漢字 当用漢字 日本の表記法の改革 現代かなづかい					事前: テキストの読み・読みタスク 事後: 復習・プリント問題		講義 40分 演習 50分	
13	部首 画数と筆順 漢和辞典のくみため					事前: テキストの読み・読みタスク 事後: 復習・ノートまとめ		講義 40分 演習 50分	
14	漢字のかながき					事前: テキスト・資料の読み 事後: 復習・ノートまとめ		講義(30分) 討論・演習(60分)	
15	まとめ					事前: 質問・確認事項の洗い出し 事後: 全体の振り返り		講義 40分 演習 50分	
教本： 【にっぽんご7 漢字】むぎ書房					参考文献： 宮島達夫 著『語彙論研究』むぎ書房				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等(30%)、小テスト・レポート等(30%)、学期末レポートもしくは学期末試験(40%)等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 漢字・語彙を単に覚えるだけでなく、実際の使い方を理解してどんどん使ってみましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									



開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習	
授業科目(英文)	日本語教育実習 (Practice Teaching of Japanese)						科目分類	日本語教員科目		
担 当 教 員	松浦 恵津子									
履 修 条 件	前提科目	日本語教授法、日本語教育方法論Ⅰ・Ⅱ、日本語教育実習指導								
	その他	日本語教員養成課程履修者								
授業概要： これまで学んだ日本語教育に関する知識・技能を実践の場で生かしていくために、教育実習に参加する。実習先を選び、実習のための周知準備を行い、教壇実習を行う。事後学習として、実習で学んだことを、これからの教授活動に生かしていくための方法を考える。実習先の実習プログラムにより、実習内容に変更が生じる場合がある。										
授業目標：日本語学習者を対象とした授業において、実際に教壇に立ち教えることを通して、以下のようなことを学ぶ。 1. これまでに学んできた知識や技術が、どう実践に生かされていくか、ということに気づき考える。 2. 「自ら成長していく教師」として、必要な資質について考える。										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
◎			○							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	〈実習前1〉実習の目的、実習先候補の教育プログラムなどについて考える。実習先の教材を入手する。					事前：実習先について調べる 事後：ノート・資料の整理と復習		話し合い90分		
2	〈実習前2〉実習で用いる教材に慣れるために、教案を書いて模擬授業を行う。					事前：教案を書く 事後：模擬授業の振り返り		模擬授業と話し合い		
3	〈1日目〉オリエンテーション：実習の目的と諸注意の確認。実習先について知る。科目別指導法、授業見学（初級）など。					事前：実習に関する資料を読む 事後：振り返り、資料の整理		実習先での活動		
4	〈2日目〉授業見学（読解）。授業後処理見学。教壇実習①の打ち合わせ。TAとして参加するための準備。					事前：見学する授業について知る 事後：打ち合わせの整理、振り返り		見学 話し合い		
5	〈3日目〉TAとして授業参加。教壇実習①のための教材分析、教案作成、ICTをはじめ、教具・教材の検討、著作権の確認。					事前：担当箇所の教材の確認 事後：模擬授業準備		TA 各自作業		
6	〈4日目〉模擬授業①と振り返り。教壇実習リハーサル。					事前：模擬授業リハーサル 事後：教案の見直し、振り返り		模擬授業45分 話し合い		
7	〈5日目〉教壇実習①と振り返り。					事前：教壇実習のリハーサル 事後：振り返り、資料の整理		教壇実習45分 話し合い		
8	〈6日目〉授業見学（聴解）。授業後処理見学。教壇実習②の打ち合わせ。TAとして参加するための準備。					事前：見学する授業について知る 事後：振り返り、資料の整理		見学 授業参加		
9	〈7日目〉TAとして授業参加。教壇実習②のための教材分析、教案作成、ICTをはじめ、教具・教材の検討、著作権の確認。					事前：担当箇所の教材の確認 事後：模擬授業準備		TA 各自作業		
10	〈8日目〉模擬授業②と振り返り。教壇実習リハーサル。					事前：模擬授業リハーサル 事後：教案の見直し、振り返り		模擬授業45分 話し合い		
11	〈9日目〉教壇実習②と振り返り。					事前：教壇実習のリハーサル 事後：振り返り、資料の整理		教壇実習45分 話し合い		
12	〈10日目〉授業見学（文字）。授業後処理見学。教育実習全体の振り返り。					事前：見学する授業について知る 事後：振り返り、資料の整理		見学・話し合い 各自作業		
13	〈実習後1〉実習ノート提出のための準備。成果報告会への参加					事前：成果報告会の準備 事後：実習ノートの完成・提出		話し合い90分		
14	〈実習後2〉自己成長していく教師：他から教えてもらえないこと・内省的実践について考える。計画－実行－評価－改善					事前：資料を読む 事後：授業内容の整理		話し合い90分		
15	〈実習後3〉教師研修について学ぶ。日本語教師の資質と役割を考える。					事前：教師研修について調べる 事後：成果報告会の準備		話し合い90分		
教本： 参考文献： 1. 「日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）」（平成31年）文化審議会国語分科会 2. 春原憲一郎他『日本語教師の成長と自己研修』（2006）凡人社 ￥2,592 3. 川口義一『成長する教師のための日本語教育ガイドブック〈上〉〈下〉』（2005）ひつじ書房 各¥3,024										
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価する。実習先からの評価表を参考に総合評価する。										
学生へのアドバイス： 日本語教員養成課程の最後の段階です。熱心に取り組みば取り組むほど、将来大いに役立つ経験になります。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義 ・ 演 習
授 業 科 目 (英 文)	日 本 語 教 育 実 習 指 導 (Seminar on Practice Teaching of Japanese)						科 目 分 類	日 本 語 教 員 科 目	
担 当 教 員	澤 田 帆 奈 美								
履 修 条 件	前 提 科 目	日 本 語 教 授 法、日 本 語 教 育 方 法 論 I ・ II							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要： 「日本語教育方法論Ⅱ」の次の段階という位置づけで、「日本語教育の参照枠」について学び、「行動中心アプローチ」と「Can-do」について理解する。さらに「Can-do」を生かした「コースデザイン」について考え、「Can-do」を軸にした授業を模擬的に行う。									
授 業 目 標： 1. 「日本語教育の参照枠」、行動中心アプローチ、Can-doについて理解する。 2. 「Can-do」を生かした「コースデザイン」や授業の方法を学び、教案を書いて模擬授業を行うことができる。 3. 問題を予見し、あるいは問題に直面したときに、自ら解決することができる。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション (この授業で学ぶことを説明する) 「日本語教育の参照枠」の概要、目指すもの、言語教育観について学ぶ					事前：方法論Ⅰ・Ⅱの復習 事後：資料の整理と復習		講義 60 分 演習 30 分	
2	「日本語教育の参照枠」における日本語能力観と 6 つのレベルについて学ぶ 「日本語教育の参照枠」の評価の考え方について学ぶ					事前：資料の読み 事後：資料の整理と復習		講義 60 分 演習 30 分	
3	日本語教育の参照枠を踏まえて (「Can-do」を生かした「コースデザイン」1) 対象・目標別 can-do を考える ①留学生向け ②生活者向け (「生活 Can do」参照)					事前：資料の読み 事後：資料の整理と復習		講義 60 分 演習 30 分	
4	日本語教育の参照枠を踏まえて (「Can-do」を生かした「コースデザイン」2) 対象・目標別 can-do を考える ③就労者向け					事前：資料の読み 事後：資料の整理と復習		講義 60 分 演習 30 分	
5	目標 Can-do に基づくバックワードデザインによる授業の組み立てを学ぶ					事前：資料の読み 事後：資料の整理と復習		講義 60 分 演習 30 分	
6	教案作成① (対象・目標は、授業で決める) 日本語教育の参照枠 A2 レベルを踏まえ、授業の教案を作成する					事前：模擬授業資料の分析 事後：教案の作成		講義 60 分 演習 30 分	
7	作成した教案①を、検討する					事前：教案の作成 事後：教案の修正		講義 30 分 演習 60 分	
8	作成した教案①で、模擬授業を行う					事前：模擬授業の準備 事後：模擬授業の振り返り		模擬授業 60 分 演習 30 分	
9	教案作成② (対象・目標は、授業で決める) 日本語教育の参照枠 B レベルを踏まえ、授業の教案を作成する					事前：模擬授業資料の分析 事後：教案の作成		講義 60 分 演習 30 分	
10	作成した教案②を、検討する					事前：教案の作成 事後：教案修正		講義 30 分 演習 60 分	
11	作成した教案②で、模擬授業を行う					事前：模擬授業の準備 事後：模擬授業の振り返り		模擬授業 60 分 演習 30 分	
12	教案作成③ (対象・目標は、授業で決める) 日本語教育の参照枠を踏まえ、言語活動別のはなすこと(やりとり)の授業教案を作成する					事前：模擬授業資料の分析 事後：教案の作成		講義 60 分 演習 30 分	
13	作成した教案③を、検討する					事前：教案の作成 事後：教案の修正		講義 30 分 演習 60 分	
14	作成した教案③で、模擬授業を行う					事前：模擬授業の準備 事後：模擬授業の振り返り		模擬授業 60 分 演習 30 分	
15	全体のまとめを行う					事前：全体の振り返り 事後：教育実習の準備		講義 60 分 演習 30 分	
教 本： なし。必要な資料は、印刷して配布。					参 考 文 献： 「日本語教育の参照枠」報告文化審議会国語文科学 文化庁制作「日本語教師養成のための動画教材」 Web サイト「日本語教育コンテンツ (共有システム)」				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準：到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 参 加 状 況 等 (25%)、学 習 項 目 の 一 覧 ・ 教 案 の 提 出 と 発 表 (25%)、模 擬 授 業 と 自 己 評 価 表 の 提 出 (25%)、討 論 参 加 度 と コ メ ン ト 表 の 提 出 等 (25%) で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス： で き る だ け 多 く 教 壇 に 立 っ て 練 習 を し て、少 し づ つ 教 え る こ と に 慣 れ ま し ょ う。									
オ フ ィ ス ア ワ ー： 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	日本語教育方法論 I (Methodology of Teaching Japanese as a Second Language I)							科目分類	日本語教員科目
担 当 教 員	澤田 帆奈美								
履 修 条 件	前提科目	日本語教授法							
	その他	なし							
授業概要： 日本語教員養成課程に登録した学生向けの授業であり、「日本語教授法」を履修済みであることを前提とする。初級の教え方を中心に、学習項目や活動のさせ方、教具・教材について検討していく。そして、日本語教育に必要なとされる知識・技能を身につける。									
授業目標： 日本語を外国語として教える方法を学ぶ。具体的には、 1. 参照枠にもとづいた初級前期の学習項目の分析ができる。 2. 参照枠にもとづいた実際に使える教案を書くことができる。 3. 模擬的に教授活動を行うことができるようになる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（この授業で学ぶことを説明する） ・学習項目の一覧の見方を説明する ・日本語教師の資質、能力について復習する					事前：教科書の購入 事後：授業の復習		講義 90分	
2	初級の学習項目1『みんなの日本語初級I第2版 本冊』1～3課（名詞述語文①） ・構造シラバスのプログラムを確認する ・学習項目を分析する					事前：1～3課の熟読 事後：資料の整理と復習		講義 30分 演習 60分	
3	初級の学習項目2『みんなの日本語初級I第2版 本冊』1～3課（名詞述語文②） ・導入のしかた、句型練習とアクティビティのさせ方、会話教材の使い方を学ぶ					事前：1～3課の熟読 事後：資料の整理と復習		講義 30分 演習 60分	
4	初級の学習項目3『みんなの日本語初級I第2版 本冊』4課（動詞述語文①） ・学習項目を分析する ・効果的な教材を考える ・教材の著作権について学ぶ					事前：4課の熟読 事後：資料の整理と復習		講義 30分 演習 60分	
5	教案の書き方について学び、担当を決め教案を書く ・1つの課の学習項目と授業計画、授業の流れ、学習者の中間言語（教室で使う日本語）、環境の設定を考える					事前：学習項目の一覧表 事後：教案の作成		講義 30分 演習 60分	
6	初級の学習項目4『みんなの日本語初級I第2版 本冊』5課（動詞述語文②） ・学習項目を分析する ・効果的な教材を考える					事前：5課の熟読 事後：資料の整理と復習		講義 30分 演習 60分	
7	初級の学習項目5『みんなの日本語初級I第2版 本冊』6課（動詞述語文③） ・学習項目を分析する ・効果的な教材を考える					事前：6課の熟読 事後：資料の整理と復習		講義 30分 演習 60分	
8	初級の学習項目6『みんなの日本語初級I第2版 本冊』7課（動詞述語文④） ・学習項目を分析する ・効果的な教材を考える					事前：7課の熟読 事後：資料の整理と復習		講義 30分 演習 60分	
9	初級の学習項目7『みんなの日本語初級I第2版 本冊』8・9課（形容詞述語文①） ・学習項目を分析する ・効果的な教材を考える					事前：8・9課の熟読 事後：資料の整理と復習		講義 30分 演習 60分	
10	作成した教案を検討する ・目的、導入、説明のしかたと板書、ICTの利用、練習のさせ方、教具教材、発話量、時間配分、教師の日本語、などの検討					事前：教案発表の準備 事後：模擬授業準備		演習 90分	
11	初級の学習項目8『みんなの日本語初級I第2版 本冊』10・11課（存在文） ・学習項目を分析する ・効果的な教材を考える					事前：10・11課の熟読 事後：資料の整理と復習		講義 30分 演習 60分	
12	初級の学習項目9『みんなの日本語初級I第2版 本冊』12・13課（名詞/形容詞述語文の過去、感情形容詞） ・学習項目を分析する ・効果的な教材を考える					事前：12・13課の熟読 事後：資料の整理と復習		講義 30分 演習 60分	
13	模擬授業を行う① ・自他の授業への具体的評価を行う ・フィードバックのしかたを確認する					事前：授業のリハーサル 事後：振り返りレポート		模擬授業 60分 演習 30分	
14	模擬授業を行う② ・自他の授業への具体的評価を行う ・ICTを利用した教材のメリットを考える					事前：授業のリハーサル 事後：振り返りレポート		模擬授業 60分 演習 30分	
15	教具・教材の検討、研究をする（初級1）—初級メイン教材・副教材・活動集— 全体のまとめを行う					事前：13課までの項目確認 事後：初級の教え方の確認		講義 30分 演習 60分	
教本： 『みんなの日本語初級I第2版 本冊』（2012） スリーエーネットワーク ¥2,750					参考文献： 『みんなの日本語初級I 教え方の手引き』（2000）スリーエーネットワーク ¥3,080 寺田和子他『改訂版 日本語の教え方ABC』（2022）アルク ¥2,420				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（25%）、学習項目の一覧・教案の提出と発表（25%）、模擬授業と自己評価表の提出（25%）、話し合い参加度とコメント表の提出等（25%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 日本語を使って日本語を教える基本的な技術を学びます。学生のみなさんの参加により、活気ある授業にしたいと思います。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義 ・ 演 習
授 業 科 目 (英 文)	日 本 語 教 育 方 法 論 II (Methodology of Teaching Japanese as a Second Language II)							科 目 分 類	日 本 語 教 員 科 目
担 当 教 員	松 浦 恵 津 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	日 本 語 教 授 法、日 本 語 教 育 方 法 論 I が 履 修 済 だ る こ と を 条 件 と す る。							
	そ の 他	日 本 語 教 員 養 成 課 程 履 修 者							
授 業 概 要： 日 本 語 を 外 国 語 と し て 教 え る 具 体 的 な 方 法 を 学 ぶ。「日 本 語 教 育 方 法 論 I」の 次 の 段 階 と い う 位 置 づ け で、よ り 多 く の 教 室 活 動 を 知 り、模 擬 授 業 を 行 っ て 教 え る こ と に 慣 れ る。ま た、次 の「日 本 語 教 育 実 習 指 導」で 学 ぶ「日 本 語 教 育 の 参 照 枠」へ の 導 入 と し て、そ の 言 語 教 育 観 と、地 域 に お け る 多 文 化 共 生 ・ 日 本 語 教 育 の 取 り 組 み に つ い て 学 ぶ。									
授 業 目 標：日 本 語 を 外 国 語 と し て 教 え る 方 法 を 学 ぶ。具 体 的 に は、 1. 初 級 中 期 の 学 習 項 目 の 分 析 が で き る。効 果 的 な 活 動 を 取 り 入 れ た 教 案 を 書 く こ と が で き る。 2. 模 擬 的 な 教 授 活 動 を ス ム ー ズ に 行 う こ と が で き る。 3. 「日 本 語 教 育 の 参 照 枠」の 言 語 教 育 観 と、地 域 に お け る 多 文 化 共 生 ・ 日 本 語 教 育 の 取 り 組 み に つ い て 理 解 す る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション 『みんなの日本語初級 I 第 2 版 本冊』 1～13 課の復習 日本語教師の資質・能力について考える。(50 の教育内容 H31 報告 p.24)					事前：方法論 I の復習 事後：資料の整理と復習		講義 30 分 話し合い 60 分	
2	『みんなの日本語初級 I』14 課 学習項目一覧の作成と分析。動詞の分類について学ぶ。動詞テ形の作り方とテ形を使う文型(依頼・指示・勧め)について学ぶ。					事前：14 課の学習項目表 事後：資料の整理と復習		講義 30 分 話し合い 60 分	
3	教案検討会 1 目的、導入、説明のしかたと板書、机の配置、ICT の利用、練習のさせ方、教具教材、発話量、時間配分、教室で使う日本語と他言語等について検討する。					事前：教案作成 事後：教案の修正		発表・質疑応答・ 話し合い 90 分	
4	模擬授業と反省会 1 ・模擬授業を行い、第 3 回における観点や改善点などについて話し合う。 ・フィードバックのしかた ・自他の授業への具体的評価を行う。					事前：模擬授業準備 事後：振り返りレポート		模擬授業と話し合い 90 分	
5	『みんなの日本語初級 I』15 課・17 課 学習項目一覧の作成と分析。動詞テ形を使う文型(許可・禁止)、ナイ形の作り方とナイ形を使う文型について学ぶ。					事前：15・17 課の学習項目 事後：資料の整理と復習		講義 30 分 話し合い 60 分	
6	『みんなの日本語初級 I』18 課・19 課 学習項目一覧の作成と分析。動詞辞書形・タ形の作り方と、辞書形・タ形を使う文型について学ぶ。					事前：18・19 課の学習項目 事後：資料の整理と復習		講義 30 分 話し合い 60 分	
7	『みんなの日本語初級 I』20 課以降の学習項目「ふつう形」「ふつう形を使う複文」について学び、教え方・練習法を検討する。					事前：ふつう形とは 事後：資料の整理と復習		講義 30 分 話し合い 60 分	
8	教案検討会 2 ・特にアクティビティと会話練習について 第 3 回と同様に検討その他、教材の著作権やコミュニケーションストラテジーについて学ぶ。					事前：教案作成 事後：教案の修正		発表・質疑応答・ 話し合い 90 分	
9	模擬授業と反省会 2 ・模擬授業を行い、第 9 回における観点や改善点などについて話し合う。 ・フィードバックのしかた ・自他の授業への具体的評価を行う。					事前：模擬授業準備 事後：振り返りレポート		模擬授業と話し合い 90 分	
10	日本語の指導法—レベル別(中上級)について学ぶ ・インプット活動：ボトムアップ/トップダウン/相互交流。談話理解など ・アウトプット活動：ロールプレイなど					事前：キーワードを調べる 事後：資料の整理と復習		発表・質疑応答・ 話し合い 90 分	
11	日本語の指導法—技能別教材について学ぶ レベル別 4 技能別、複合的教材について学ぶ。					事前：どんな教材があるか 事後：資料の整理と復習		発表・質疑応答・ 話し合い 90 分	
12	「日本語教育の参照枠」序論：行動中心アプローチと Can do、CEFR 「日本語教育の参照枠」における言語教育観、日本能力観について学ぶ。					事前：参照枠を読む 事後：資料の整理と復習		発表・質疑応答・ 話し合い 90 分	
13	「日本語教育の参照枠」における言語熟達度に関する 2 つの指標：「全体的な尺度」と「言語活動別の熟達度」について学ぶ					事前：参照枠を読む 事後：資料の整理と復習		発表・質疑応答・ 話し合い 90 分	
14	多文化共生(地域における共生) 1 日本語教育推進法と関連する国の施策 地方公共団体の施策例(神奈川県愛川町)					事前：推進法を読む 事後：資料の整理と復習		発表・質疑応答・ 話し合い 90 分	
15	多文化共生(地域における共生) 2 自分が住んでいる地域の多文化共生の取り組みを調べて報告する。					事前：取り組みの調査 事後：初級の教え方の確認		講義 30 分 話し合い 60 分	
教本： 『みんなの日本語初級 I 第 2 版 本冊』(2012) スリーエーネットワーク ¥2,750 「日本語教育の参照枠」報告(2021) 文化審議会国語分科会 その他、授業で伝える。					参考文献：				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等(25%)、学習項目の一覧・教案の提出と発表(25%)、模擬授業と自己評価表の提出(25%)、話し合い参加度とコメント表の提出等(25%)で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 事前・事後の課題(授業外での課題)が多くなります。模擬授業担当者は、周到な準備とリハーサルを行ってから参加してください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	日 本 語 教 授 法 (Japanese-Language Pedagogy)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	澤 田 帆 奈 美								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>グローバル化の進展により人やモノの移動が盛んになる中で、どのような人たちがどのような日本語を必要としているのか。また、日本語でのコミュニケーション実現のために、外国語としての日本語をどのように伝えていったらいいのか。このようなことを学ぶ。</p>									
授 業 日 標 :									
<p>1. 日本語を外国語として教える「日本語教育」に関して、基本的な知識を身につける。 2. 日本語教育についていくつかの側面から考えることができる。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	イントロダクション 日本語教育の現状 (1) 海外編について学ぶ ・概況的な統計 ・各国の日本語教育					事前：シラバスを読んでくる 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 70 分 演習 20 分	
2	日本語教育の現状 (2) 国内編について学ぶ ・概況的な統計 ・受け入れ政策 ・年少者、生活者、難民への日本語教育 ・在留外国人施策					事前：配付資料の熟読 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 70 分 演習 20 分	
3	日本語教育の歴史について学ぶ (1) ・時代区分 ・「日本語学習」期 (19C 末まで) ・「国語 (日本語) 教育」期 (20C 初～1945 年)					事前：配付資料の熟読 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 70 分 演習 20 分	
4	日本語教育の歴史について学ぶ (2) ・「日本語教育」期 (1945～現在) ・各時期の言語政策					事前：配付資料の熟読 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 70 分 演習 20 分	
5	外国語教授法 (1) 文法に重点をおいた教授法について学ぶ ・文法翻訳法 ・構造言語学の理論に基づいた教授法 ・直接法					事前：配付資料の熟読 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 70 分 演習 20 分	
6	外国語教授法 (2) コミュニケーションに重点をおいた教授法について学ぶ ・コミュニカティブ・アプローチ ・アクティビティのいろいろ					事前：配付資料の熟読 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 70 分 演習 20 分	
7	外国語教授法 (3) 心理学や認知学習理論に基づいた教授法について学ぶ ・学習者の情意的側面 ・学習者が考え、学んでいく日本語教育					事前：配付資料の熟読 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 70 分 演習 20 分	
8	コースデザインとシラバスについて学ぶ ・コースデザインで行うこと ・シラバスの種類と組み合わせ					事前：配付資料の熟読 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 70 分 演習 20 分	
9	日本語教育における評価法について学ぶ (1) ・評価の目的、対象、種類 ・結果の分析					事前：配付資料の熟読 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 70 分 演習 20 分	
10	日本語教育における評価法について学ぶ (2) ・テストの作成と結果の分析 ・パフォーマンステストを評価する ・コンピューターを使ったテスト					事前：配付資料の熟読 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 70 分 演習 20 分	
11	第二言語習得論について学ぶ (1) ・第二言語習得研究とは ①行動主義的見解 ②生得的見解 ③第二言語習得 ④誤用分析					事前：配付資料の熟読 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 70 分 演習 20 分	
12	第二言語習得論について学ぶ (2) 第二言語習得に対するさまざまな見解 ⑤中間言語の発達 ⑥第一言語の影響 ⑦モニター理論					事前：配付資料の熟読 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 70 分 演習 20 分	
13	第二言語習得論について学ぶ (3) 第二言語習得に対するさまざまな見解 ⑧インターアクション (相互交流) 的な見解 ⑨認知主義的な見解					事前：配付資料の熟読 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 70 分 演習 20 分	
14	第二言語習得論について学ぶ (4) ・教室での指導ーインプット重視の指導、言語形式に焦点を当てる指導 ・学習差の個人差要因					事前：配付資料の熟読 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 70 分 演習 20 分	
15	学習ストラテジーについて学ぶ					事前：質問・確認事項の洗い出し 事後：レポートの作成		講義 70 分 演習 20 分	
教 本 :									
プリントを配付する。			参 考 文 献 :						
<p>「海外日本語教育機関調査」国際交流基金 「日本語教育実態調査」文化庁 「新・日本語教育を学ぶーなぜ、なにを、どう教えるかー」遠藤織枝ほか (2020) 三修社</p>									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。									
<p>授業内容への参加状況等 (10%)、小テスト・レポート等 (30%)、学期末レポート (60%) 等で総合評価する。</p>									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
<p>自分が今までに受けてきた外国語の授業、あるいは自分の外国語学習と照らし合わせながら、日本語を外国語として教えるということを考えてみると、興味ももてるでしょう。なお、事前学習については、その都度指示・確認します。</p>									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
<p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	日 本 語 講 読 (Japanese Reading)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	松 浦 恵 津 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	日 本 語 概 論、日 本 語 学 (文 法)、日 本 語 学 (音 声 ・ 音 韻)							
	そ の 他	(上 記 科 目 を 履 修 し て い な く て も 履 修 で き ま す)							
授 業 概 要： さまざまな日本語を材料にして、日本語の仕組みを考える。これまで日本語について学んできたことを生かしながら、自ら考え、他の人の意見を聞いて、考えを発展させ、解決案を見いだしていく。									
授 業 目 標： 1. 日本語の用例を、言語学的に分析することができる。 2. 自分の考えを述べ、他の人の意見を聞き、考えをまとめることができる。 3. 意見・考えを、明快・簡潔にわかりやすく述べることができる。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			◎			○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション これまで日本語学の各分野で学んだことを振り返る					事前：シラバスを読む 事後：学習内容の整理		話し合いと発表	
2	1. 「しりとり」にひそむ問題 ① 拗音や長音で終わることばの場合や、1 つのことばとして認められるかについて考える					事前：資料に目を通す 事後：学習内容の整理		話し合いと発表	
3	1. 「しりとり」にひそむ問題 ② しりとりの作戦や、固有名詞や略語などは認められるかについて考える					事前：資料に目を通す 事後：学習内容の整理		話し合いと発表	
4	2. 「ことばの意味」の諸相 ① 類義語や多義語について考える。					事前：資料に目を通す 事後：学習内容の整理		話し合いと発表	
5	2. 「ことばの意味」の諸相 ② 複合語の意味や語用論的意味について考える					事前：資料に目を通す 事後：学習内容の整理		話し合いと発表	
6	3. 「若者ことば」の特徴 ① 略語や程度を表すことばについて考える					事前：資料に目を通す 事後：学習内容の整理		話し合いと発表	
7	3. 「若者ことば」の特徴 ② あいまい表現や語形について考える					事前：資料に目を通す 事後：学習内容の整理		話し合いと発表	
8	4. 「和語・漢語・外来語」一語種 (単語の出身地) ① 語種の区別や使い分けについて考える					事前：資料に目を通す 事後：学習内容の整理		話し合いと発表	
9	4. 「和語・漢語・外来語」一語種 (単語の出身地) ② 外来語について考える					事前：資料に目を通す 事後：学習内容の整理		話し合いと発表	
10	5. 「会話の意図が伝わらない」のはなぜか ① 意図しないことが伝わる場合や、客の心をつかむには、について考える					事前：資料に目を通す 事後：学習内容の整理		話し合いと発表	
11	5. 「会話の意図が伝わらない」のはなぜか ② 印象のよしあしや、会話がうまくいく方法について考える					事前：資料に目を通す 事後：学習内容の整理		話し合いと発表	
12	6. 「音声と文字の対応」言われてみれば…… ① 音声と文字の非対応について考える					事前：資料に目を通す 事後：学習内容の整理		話し合いと発表	
13	6. 「音声と文字の対応」言われてみれば…… ② 外来語や助数詞の音と表記について考える					事前：資料に目を通す 事後：学習内容の整理		話し合いと発表	
14	7. 「ことば遊び」は何かおもしろいのか ① シャレや早口ことばについて考える					事前：資料に目を通す 事後：学習内容の整理		話し合いと発表	
15	7. 「ことば遊び」は何かおもしろいのか ② ことばのなぞなぞや、回文について考える					事前：資料に目を通す 事後：学習内容の振り返り		話し合いと発表	
教 本： 野田尚史ほか『日本語を分析するレッスン』大修館書店 ￥1,650					参 考 文 献：				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準：到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 参 加 状 況 等 (50%)、提 出 物 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス： 身近な日本語について考え、意見交換をしましょう。異なった意見が出たときの対処のしかたも考えましょう。									
オ フ ィ ス ア ワ ー： 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	日 本 語 史 (History of Japanese Language)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	松 浦 恵 津 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	日 本 語 概 論							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 文 章 ・ 文 体 ・ 文 字 表 記 ・ 音 韻 ・ 語 彙 ・ 文 法 の 各 領 域 に つ い て ・ 現 代 の 日 本 語 が ・ 古 代 か ら ど の よ う な 変 遷 を 経 て 成 立 し た の か を 概 観 す る 。 各 時 代 の 資 料 か ら ・ 当 時 の 日 本 語 の 姿 を よ み と る 。									
授 業 目 標 : 1. 現 代 日 本 語 が ど の よ う な 過 程 を 経 て 成 立 し た の か を 理 解 す る 。 2. 中 学 校 ・ 高 等 学 校 国 語 教 員 志 望 者 ・ 日 本 語 教 員 志 望 者 の 教 材 研 究 に 必 要 な 知 識 と 方 法 を 身 に つ け る 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画 ・ 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 ・ 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オ リ エ ン テ ー シ ョ ン 日 本 語 史 の 時 代 区 分 を 知 る 。					事 前 : シ ラ バ ス を 読 ん で く る 事 後 : 時 代 区 分 の 確 認		オ リ 30 分 ・ 講 義 40 分 ・ プ リ ン ト 記 入 20 分	
2	文 章 ・ 文 体 史 ① (上 代 ・ 中 古) 上 代 ・ 中 古 の 日 本 語 資 料 の 文 章 ・ 文 体 に つ い て 知 る 。					事 前 : な し 事 後 : 配 付 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義 50 ~ 60 分 ・ プ リ ン ト 記 入 30 ~ 40 分	
3	文 章 ・ 文 体 史 ② (中 世 ・ 近 世) : 中 世 の 日 本 語 資 料 の 文 章 ・ 文 体 に つ い て 知 る 。					事 前 : 配 付 資 料 に 目 を 通 す 事 後 : 配 付 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義 50 ~ 60 分 ・ プ リ ン ト 記 入 30 ~ 40 分	
4	文 章 ・ 文 体 史 ③ (近 代) : 近 世 ・ 近 代 の 日 本 語 資 料 の 文 章 ・ 文 体 に つ い て 知 る 。					事 前 : 配 付 資 料 に 目 を 通 す 事 後 : 配 付 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義 50 ~ 60 分 ・ プ リ ン ト 記 入 30 ~ 40 分	
5	文 字 史 ① (上 代) : 万 葉 仮 名 の し く み に つ い て 知 る 。					事 前 : 日 本 語 の 文 字 に つ い て 事 後 : 配 付 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義 50 ~ 60 分 ・ プ リ ン ト 記 入 30 ~ 40 分	
6	文 字 史 ② (中 古 以 降) : ひ ら が な ・ カ タ カ ナ の 成 立 ・ 仮 名 遣 い の 変 遷 ・ 文 字 に 関 す る 政 策 に つ い て 知 る 。					事 前 : 配 付 資 料 に 目 を 通 す 事 後 : 配 付 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義 50 ~ 60 分 ・ プ リ ン ト 記 入 30 ~ 40 分	
7	語 彙 史 ① (上 代 ・ 中 古) : 上 代 ・ 中 古 の 日 本 語 資 料 の 語 彙 に つ い て 知 る 。					事 前 : 語 彙 史 と は 事 後 : 配 付 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義 50 ~ 60 分 ・ プ リ ン ト 記 入 30 ~ 40 分	
8	語 彙 史 ② (中 世 ・ 近 世 ・ 近 代) : 中 世 ・ 近 世 ・ 近 代 の 日 本 語 資 料 の 語 彙 に つ い て 知 る 。					事 前 : 配 付 資 料 に 目 を 通 す 事 後 : 配 付 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義 50 ~ 60 分 ・ プ リ ン ト 記 入 30 ~ 40 分	
9	文 法 史 ① (体 言 ・ 用 言 - 動 詞) : 代 名 詞 ・ 動 詞 の 活 用 の 種 類 ・ 各 活 用 形 の 用 法 の 変 遷 に つ い て 知 る 。					事 前 : 古 代 の 動 詞 の 活 用 に つ い て 事 後 : 配 付 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義 50 ~ 60 分 ・ プ リ ン ト 記 入 30 ~ 40 分	
10	文 法 史 ② (用 言 - 形 容 詞 ・ 形 容 動 詞) : 形 容 詞 ・ 形 容 動 詞 の 活 用 の 種 類 や ・ 各 活 用 形 の 用 法 の 変 遷 に つ い て 知 る 。					事 前 : 配 付 資 料 に 目 を 通 す 事 後 : 配 付 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義 50 ~ 60 分 ・ プ リ ン ト 記 入 30 ~ 40 分	
11	文 法 史 ③ (助 動 詞 ・ 助 詞) : 助 動 詞 ・ 助 詞 の 変 遷 に つ い て 知 る 。					事 前 : 配 付 資 料 に 目 を 通 す 事 後 : 配 付 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義 50 ~ 60 分 ・ プ リ ン ト 記 入 30 ~ 40 分	
12	音 韻 史 ① (上 代 ・ 中 古) : 上 代 ・ 中 古 の 日 本 語 の 音 韻 に つ い て 知 る 。					事 前 : な し 事 後 : 配 付 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義 50 ~ 60 分 ・ プ リ ン ト 記 入 30 ~ 40 分	
13	音 韻 史 ② (中 世 ・ 近 世 ・ 近 代) : 中 世 ・ 近 世 ・ 近 代 の 日 本 語 の 音 韻 に つ い て 知 る 。					事 前 : 配 付 資 料 に 目 を 通 す 事 後 : 配 付 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義 50 ~ 60 分 ・ プ リ ン ト 記 入 30 ~ 40 分	
14	近 現 代 語 の 成 立					事 前 : 昔 の 日 本 語 の 辞 書 に つ い て 事 後 : 配 付 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義 50 ~ 60 分 ・ プ リ ン ト 記 入 30 ~ 40 分	
15	辞 書 の 歴 史 を 知 り ・ 現 代 の 辞 書 と 比 較 す る 。 ま と め					事 前 : 質 問 ・ 確 認 事 項 の 洗 い 出 し 事 後 : レ ポ ー ト 作 成		質 疑 応 答	
教 本 : プ リ ン ト を 配 布 す る 。					参 考 文 献 : 岡 崎 友 子 ほ か (2016) 『ワ ー ク ブ ッ ク 日 本 語 の 歴 史』 く ろ し お 出 版 ¥1,650				
成 績 評 価 の 方 法 ・ 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。 授 業 参 加 状 況 等 (20%)、提 出 物 等 (20%)、定 期 試 験 (60%) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 昔 の 人 々 は ・ ど ん な 日 本 語 を 使 っ て い た の で し ょ う か 。 古 代 か ら 現 代 ま で の 日 本 語 の 変 遷 を 扱 い ま す 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	日本語プレゼンテーション (Presentation in Japanese)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	石井 みどり								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<b>授業概要：</b> 社会のさまざまな場面でプレゼンテーションの機会があり、コミュニケーションの大切な手段の一つとなっています。授業では、プレゼンテーションを効果的に実践できるよう、基礎を指導し、さまざまな課題に取り組みます。									
<b>授業目標：</b> 日本語表現とコミュニケーション能力の向上を目指します。自分の考え方を的確に相手に伝える表現を学び、プレゼンテーションの基礎を身につけることを目的とします。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：「見る」とは何か		講義 90分	
2	「見る」とは何か ①					事前：「見る」とは何か 事後：「見る」を理解する		講義 60分 グループワーク 30分	
3	「見る」とは何か ②					事前：「見る」を理解する 事後：「見る」を理解する		講義 30分 グループワーク 60分	
4	言葉とは何か					事前：「言葉」とは何か 事後：「言葉」を理解する		講義 60分 グループワーク 30分	
5	自分の気持ちを相手に伝える ①					事前：「伝える」とは何か 事後：「伝える」を表現する		講義 60分 グループワーク 30分	
6	自分の気持ちを相手に伝える ②					事前：「伝える」を表現する 事後：「伝える」を表現する		講義 30分 グループワーク 60分	
7	テーマとストーリー ①					事前：テーマを考える 事後：ストーリーを考える		講義 30分 グループワーク 60分	
8	テーマとストーリー ②					事前：ストーリーを作る 事後：ストーリーを作る		講義 30分 グループワーク 60分	
9	テーマとストーリー ③					事前：ストーリーを作る 事後：ストーリーを作る		講義 30分 グループワーク 60分	
10	ストーリーと構成					事前：構成とは何か 事後：構成を考える		講義 50分 グループワーク 40分	
11	資料の作成					事前：資料とは何か 事後：資料の作成をする		講義 50分 グループワーク 40分	
12	プレゼンテーション実践 ①					事前：プレゼンテーション 事後：ストーリーと資料作成		プレゼンテーション 90分	
13	プレゼンテーション実践 ②					事前：プレゼンテーション 事後：ストーリーと資料作成		プレゼンテーション 90分	
14	プレゼンテーション実践 ③					事前：プレゼンテーション 事後：ストーリーと資料作成		プレゼンテーション 90分	
15	まとめ					事前：実践の総括 事後：実践の総括		講義 90分	
<b>教本：</b> 資料を配布するので、教科書は指定しません。					<b>参考文献：</b> 適宜、指示します。				
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 授業参加状況等（40%）、授業中の課題、定期試験（60%）等で総合評価します。									
<b>学生へのアドバイス：</b> 自分も相手も大切に表現方法を学んでください。									
<b>オフィスアワー：</b> 初回の授業で教えます。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	日本史 (History of Japan)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	石井 みどり・増田 裕彦								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>国際化が進む一方で、日本の歴史と文化を理解する必要性は、ますます高まっています。本講義では、当時の政治、経済、文化をふりかえりながら、その時代に生きた人々がどのような考えをもっていたのか理解を深めていきます。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>原始から近現代にかけて、日本史の基礎知識を習得し、理解する力を養うことを目的としています。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：縄文時代		講義 90分	
2	文字のない時代					事前：縄文時代 事後：縄文時代		講義 90分	
3	卑弥呼と邪馬台国					事前：縄文・弥生・古墳時代 事後：弥生・古墳時代		講義 90分	
4	聖徳太子と十七条憲法					事前：飛鳥時代 事後：飛鳥時代		講義 90分	
5	貴族の生活と国風文化					事前：奈良時代 事後：平安時代		講義 90分	
6	平清盛と日宋貿易					事前：平安時代 事後：平安時代後期		講義 90分	
7	源頼朝と義経					事前：平安時代後期 事後：鎌倉時代		講義 90分	
8	織田信長と下剋上の時代					事前：南北朝・室町時代 事後：室町・安土桃山時代		講義 90分	
9	豊臣秀吉と朝鮮出兵					事前：安土桃山時代 事後：安土桃山時代		講義 90分	
10	江戸幕府の成立と島原の乱					事前：江戸時代前期 事後：江戸時代前期		講義 90分	
11	開国と幕末の動乱					事前：江戸時代中期 事後：江戸時代後期		講義 90分	
12	明治維新と文明開化					事前：江戸時代後期 事後：明治時代		講義 90分	
13	戦争の近代 ① 第一次世界大戦とドイツ人捕虜					事前：明治時代 事後：明治・大正時代		講義 90分	
14	戦争の近代 ② 第二次世界大戦の背景にあるもの					事前：明治・大正・昭和時代 事後：昭和時代		講義 90分	
15	まとめ					事前：通史の総括 事後：通史の総括		講義 90分	
<p>教本：</p> <p>初回の授業で教えます。</p>					<p>参考文献：</p> <p>「詳説 日本史研究」山川出版社</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>授業参加状況等（40%）、授業中の課題、定期試験（60%）等で総合評価します。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>文字だけで判断するのではなく、歴史の本質を理解するよう心がけてください。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回の授業で教えます。</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	日本史 (History of Japan)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	小林 克								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 最初に、高校まで学んできた日本の歴史はどのような史料の調査、研究により明らかにされてきたかを明らかにする。その上で、日本の歴史の様々な変革期について、その原因と過程、結果について史・資料を示し分かりやすく説明。そして現代に近づくにつれ、今の我々の国や社会の仕組、暮らし、文化のあり方が、どのような形で変容してきたのかを示し、自分たちの問題として考える。									
授業目標： 日本の歴史が明らかにされた背景には古文書史料、考古資料等の存在があることを学ぶ。日本史が世界史と連動していることを学び、歴史を知ることが、今後の人生や様々な活動での判断の基になることを理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス 授業の進め方の説明。歴史学研究の方法と日本の歴史はどのように判明してきたのか。そのエビデンスとしての考古資料、古文書等について					事前：高校日本史教科書を読んでおく。 事後：配付資料の内容確認		講義(90分)	
2	旧石器時代～縄文時代のはじまり 日本列島に人間がやってきた頃とその後について、遺跡、遺物から					事前：講義の時代について年代・概要を調べる 事後：配付資料の内容確認		講義(90分)	
3	縄文時代 遺跡、遺物から見る世界的にも希な自然との共生を果たした縄文時代の暮らしについて					事前：講義の時代について年代・概要を調べる 事後：配付資料の内容確認		講義(90分)	
4	弥生時代 稲作の拡大、金属器の使用についての意味と国家の成立。卑弥呼の生きた時代とは					事前：講義の時代について年代・概要を調べる 事後：配付資料の内容確認		講義(90分)	
5	古墳時代 様々な古墳津築造の意味。大陸からの文化の流入					事前：講義の時代について年代・概要を調べる 事後：配付資料の内容確認		講義(70分)、 小テスト(20分)	
6	飛鳥時代 仏教の受容と朝鮮半島、中国王朝との交流について					事前：講義の時代について年代・概要を調べる 事後：配付資料の内容確認		講義(90分)	
7	奈良時代・平安時代 遣唐使と中国文化の導入。貴族の生活と荘園 一般の人々の暮らし					事前：講義の時代について年代・概要を調べる 事後：配付資料の内容確認		講義(90分)	
8	武家政権の誕生と展開 平氏政権から源頼朝の鎌倉幕府成立 朝廷と鎌倉幕府の関係 元寇の持つ意味					事前：講義の時代について年代・概要を調べる 事後：配付資料の内容確認		講義(70分)、 小テスト(20分)	
9	室町時代 南北朝の動乱と室町幕府の成立。関東から始まった戦国時代 倭寇の展開と日明貿易					事前：講義の時代について年代・概要を調べる 事後：配付資料の内容確認		講義(70分)、 小テスト(20分)	
10	安土・桃山時代 戦国大名の争いと、織田信長そして豊臣秀吉の覇権。鉄砲とキリスト教の伝来					事前：講義の時代について年代・概要を調べる 事後：配付資料の内容確認		講義(70分)、 小テスト(20分)	
11	江戸幕府の成立と都市 江戸のインフラ整備と発展					事前：講義の時代について年代・概要を調べる 事後：配付資料の内容確認		講義(70分)、 小テスト(20分)	
12	江戸時代の社会、生活と文化 技術革新と海外からの文化、技術の相互交流について。レポートの指示					事前：講義の時代について年代・概要を調べる 事後：配付資料の内容確認		講義(90分)	
13	江戸時代の海外交流 陶磁器や漆器、和服などの輸出と、生活文化への相互影響について					事前：講義の時代について年代・概要を調べる 事後：配付資料の内容確認		講義(70分)、 小テスト(20分)	
14	幕末の動乱から明治政府誕生 ベリー来航から幕末動乱、そして江戸開城、戊辰戦争。西南の役					事前：講義の時代について年代・概要を調べる 事後：配付資料の内容確認		講義(90分)	
15	まとめ 全体を纏める講義。レポートの概要について発表					事前：レポートの準備と発表準備 事後：レポートの準備		講義(40分)・ 演習(50分)	
教本： 特になし。ほぼ毎回資料プリントを配布する。					参考文献： 講義ごとに示す。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（40%）、定期試験（40%）等で総合評価する。3回以上の欠席の場合は、公欠等にかかわらず課題を課す。									
学生へのアドバイス： 毎回配布する資料プリントで復習すること。小テスト、定期試験はそのプリントから出題する。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	日本史概論 I (History of Japan I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	小林 克								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 最初に、教科書に記載された日本の歴史がどのような史料の調査、研究により分かってきたのかを知る。日本の歴史の大きな流れと時代区分を理解し、原始・古代から中世初期迄の日本史について学ぶ。具体的には各時代の概要を確認した上で様々な視点からの個別的事例を取り上げ、歴史の調査・研究事例を具体的に示す。									
授業目標： 日本の歴史が明らかにされた背景には古文書史料、考古資料、他の存在があることを学ぶ。日本の歴史が東アジア史と連動していることを知り、中世初期までの日本史の流れを理解する。その上で、歴史は「暗記」するものではなく、「考える」事が重要な点だと確認する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス。授業の進め方と評価方法等の説明。日本史は古代以降、歴史書が編纂され続けてきた。近代以降、いつからどのように研究され、教科書の記述がなされているのかについて。					事前：高校等の日本史の教科書を事前に通読する。 事後：配布資料等の復習		講義(70分) 演習(20分)	
2	日本史研究の方法。時代区分の意味と世界史研究との関係について。東アジアの歴史と日本の歴史の連動について。研究の根拠となる文献史料や考古資料、絵画資料、建築史料等について。					事前：参考本の時代区分について確認する。 事後：配布資料等の復習		講義(70分) 演習(20分)	
3	原始(1)。旧石器時代 世界の人類の移動と日本列島到達。石器文化の変遷。旧石器時代の遺跡からみた人々の暮らし。					事前：参考文献の当該時代を通読 事後：配布資料等の復習		講義(60分) 小テスト(30分)	
4	原始(2)。縄文時代 気候変動と土器作りの開始。土器研究から分かった時期区分の意味。三内丸山遺跡にみる定住もある特徴的な縄文時代の暮らし。					事前：参考文献の当該時代を通読 事後：配布資料等の復習		講義(70分) 演習(20分)	
5	原始(3)。弥生文化の広がりや稲作。縄文時代晩期の様相と弥生時代の始まり。横浜で見つかった弥生時代の集落と墓域。					事前：参考文献の当該時代を通読 事後：配布資料等の復習		講義(60分) 小テスト(30分)	
6	原始(4)。弥生～古墳時代 国の成立と墳丘墓、そして古墳へ。卑弥呼と邪馬台国はどこに(纏向遺跡、箸墓古墳等を取り上げる)					事前：参考文献の当該時代を通読 事後：配布資料等の復習		講義(60分) 演習(30分)	
7	原始(5)。前方後円墳と大和朝廷。古墳時代と古墳と様々な技術の伝来について。					事前：参考文献の当該時代を通読 事後：配布資料等の復習		講義(60分) 小テスト(30分)	
8	古代(1)。飛鳥時代の日本と朝鮮半島、東アジア。壬申の乱と天武天皇の業績。					事前：参考文献の当該時代を通読 事後：配布資料等の復習		講義(60分) 演習(30分)	
9	古代(2)。奈良時代の政治と文化。遣隋使と遣唐使がもたらした文化や制度。					事前：参考文献の当該時代を通読 事後：配布資料等の復習		講義(60分) 小テスト(30分)	
10	古代(3)。聖武天皇と光明皇后。仏教の拡大と正倉院について。					事前：参考文献の当該時代を通読 事後：配布資料等の復習		講義(60分) 演習(30分)	
11	古代(4)。平安時代。貴族の政治と文化。菅原道真と陰陽師。荘園と武士の発生と台頭。					事前：参考文献の当該時代を通読 事後：配布資料等の復習		講義(60分) 演習(30分)	
12	古代(5)。発掘調査からわかった奈良・平安時代における関東での人々の生活と文化。					事前：参考文献の当該時代を通読 事後：配布資料等の復習		講義(60分) 演習(30分)	
13	古代～中世。平安時代後期の戦乱。平清盛と源頼朝。					事前：参考文献の当該時代を通読 事後：配布資料等の復習		講義(60分) 小テスト(30分)	
14	原始・古代全体の纏め。試験。					事前：1回からの配布資料の復習 事後：試験結果の確認		講義(20分) テスト(70分)	
15	原始・古代全体の振り返り。試験結果の分析と大切な点。					事前：授業全体の振り返り 事後：試験結果の分析と再確認		講義(45分) 演習(45分)	
教本： 1冊の本に沿った講義ではなく、テキストはないが、参考書のいずれかを手ずること。ほぼ毎回、資料を配付する。									
参考文献： 『大学でまなぶ日本の歴史』 木村茂光ほか編著 吉川弘文館、2016 『新もういちど読む 山川日本史』 五味文彦、鳥海靖編著、山川出版社、2017									
成績評価の方法、評価基準： 平常点(授業中の発言、多くの回で実施する小テスト)40%、レポート(2回程度)20%、試験40%等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 事前に高校等の日本史の教科書に目を通しておくこと。日本史の授業では、暗記は必要ない。自分でどのように調べて、それを纏めるかの力を付けて欲しい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	日本史概論Ⅱ (History of Japan Ⅱ)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	小 林 克								
履 修 条 件	前 提 科 目	日本史概論Ⅰ							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>具体的な史料の調査、研究によって分かってきた日本の歴史の大きな流れと時代区分を理解し、中世から現代までの日本史について学ぶ。具体的には各時代の概要を確認した上で、歴史の調査・研究事例を具体的に示し、何回かは学生同士で意見を述べて議論する。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>日本の歴史が明らかにされた背景には古文書史料他の存在があることを学ぶ。日本の歴史が世界史と連動していることを知り、中世から現代までの日本史の流れを理解する。その上で、歴史は「暗記」ではなく「考える」ものであることを、何回か議論することを通じ体験的に学ぶ。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス。授業の進め方と評価方法等の説明。地域史と日本史の関係性について。日本史研究の方法。時代区分の意味と世界史研究との関係について。東アジア、世界の歴史と日本の歴史の連動について。研究の根拠となる文献史料や考古資料、絵画資料、建築史料等について。					事前：高校世界史等の教科書を通読する。 事後：配布資料等の復習		講義(70分) 演習(20分)	
2	鎌倉幕府の成立と政治体制。源頼朝と北条氏。北条泰時と承久の乱。					事前：参考本の時代区分について確認する。 事後：配布資料等の復習		講義(70分) 演習(20分)	
3	蒙古襲来と当時の東アジア。海底発掘で明らかになった事実と「蒙古襲来絵詞」成立の背景。					事前：参考文献の当該時代を通読 事後：配布資料等の復習		講義(60分) 小テスト(30分)	
4	室町幕府の成立と南北朝の動乱 不屈の後醍醐天皇。日明貿易と倭寇。足利義満。					事前：参考文献の当該時代を通読 事後：配布資料等の復習		講義(70分) 演習(20分)	
5	室町時代 伊勢と品川の関係と関東地方の戦国時代へ。太田道灌の活躍。					事前：参考文献の当該時代を通読 事後：配布資料等の復習		講義(60分) 小テスト(30分)	
6	戦国時代 織田信長の天下統一と安土城。日本とヨーロッパの出会い。					事前：参考文献の当該時代を通読 事後：配布資料等の復習		講義(60分) 演習(30分)	
7	江戸時代 徳川家康とキリスト教。江戸時代初期の海外との交流。					事前：参考文献の当該時代を通読 事後：配布資料等の復習		講義(60分) 小テスト(30分)	
8	江戸の都市インフラの整備と暮らし。					事前：参考文献の当該時代を通読 事後：配布資料等の復習		講義(60分) 演習(30分)	
9	江戸と大阪。商品流通の発達。都市の生活文化の様子。					事前：参考文献の当該時代を通読 事後：配布資料等の復習		講義(60分) 小テスト(30分)	
10	幕末の動乱と明治維新。日清・日露戦争と東アジア情勢 台湾、朝鮮半島の領有。					事前：参考文献の当該時代を通読 事後：配布資料等の復習		講義(60分) 演習(30分)	
11	第1次世界大戦から第2次世界大戦へ 関東大震災、大東京の成立から戦時体制へ、第2次世界大戦へ。					事前：参考文献の当該時代を通読 事後：配布資料等の復習		講義(60分) 演習(30分)	
12	連合国による日本占領と朝鮮戦争。中華人民共和国の成立。					事前：参考文献の当該時代を通読 事後：配布資料等の復習		講義(60分) 演習(30分)	
13	サンフランシスコ講和から独立回復。高度成長と生活革命。その光と影。					事前：参考文献の当該時代を通読 事後：配布資料等の復習		講義(60分) 小テスト(30分)	
14	中世～現代のまとめ。試験。					事前：1回からの配付資料の復習 事後：試験結果の確認		講義(20分) テスト(70分)	
15	日本史全体の振り返りと試験結果の分析。					事前：授業全体の振り返り 事後：試験結果の分析と再確認		講義(45分) 演習(45分)	
教 本 :									
<p>1冊の本に沿った講義ではなく、テキストはないが、参考書のいずれかを手に入れること。ほぼ毎回、資料を配付する。</p>									
参 考 文 献 :									
<p>【大学でまなぶ日本の歴史】木村茂光ほか編著 吉川弘文館、2016  【新もういちど読む 山川日本史】五味文彦、鳥海靖編著、山川出版社、2017</p>									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
<p>平常点(授業中の発言、多くの回で実施する小テスト)40%、レポート(2回程度)20%、試験40%等で総合評価する。</p>									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
<p>事前に高校等の日本史、世界史の教科書に目を通しておくこと。日本史の授業では、暗記は必要ない。自分でどのように調べて、それを纏めるかの力を付けて欲しい。</p>									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
<p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	日 本 風 俗 史 (Japanese History of Manners and Customs)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	石 上 七 穂								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
1. 風 俗 学 と は な に か を 理 解 す る。									
2. 風 俗 の 歴 史 に つ い て 、 特 に 日 本 の 風 俗 史 に つ い て 共 に 学 び 、 考 え る 。									
3. 「 風 俗 」 に 関 し て 主 体 的 に 考 え る 力 を 養 う 。									
授 業 目 標 :									
日 本 の 風 俗 の 成 り 立 ち や そ の 基 本 的 な 衣 食 住 を 理 解 し 、 ま た 、 日 本 の 風 俗 文 化 や 政 治 と ど の よ う な 相 互 関 係 に あ っ た か に つ い て 理 解 を 深 め る こ と を 目 標 と す る 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 ( 最 重 要 に ◎ 、 重 要 に ○ 1 つ )									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 ( 詳 細 に 記 入 )					事 前 ・ 事 後 学 習 ( 学 習 課 題 )		授 業 形 態	
1	ガイダンス 風俗とは。日本風俗の流れを学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
2	(通史) 風俗学と風俗史について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
3	(古代) 古代人の生活について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
4	(古代) 古代人の産業について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
5	(中古) 平安時代の生活について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
6	(中古) 平安時代の信仰、陰陽師と加持祈祷について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
7	(中世) 禅とその文化について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
8	(近世) 近世の風俗と海外との交流について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
9	近現代における日本の風俗(衣食住の展開)について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
10	近代日本における風俗について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
11	風俗の伝統とモダニズムについて学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
12	学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
13	学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
14	学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
15	総括					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
教本： なし。プリント配布。					参考文献： 授業時に指示する。 1. 『日本風俗史事典』日本風俗史学会編 弘文堂 竹内誠編著 2. 『江戸文化の見方』(角川選書)角川学芸出版 2010年 竹内誠編著				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 発表とレポート(50%)・期末試験(50%)。									
学生へのアドバイス： 予習・復習を行うこと。欠席をしないことが大前提となります。最後まで取り組みましょう。									
オフィスアワー： 木曜日昼休み。総合研究センター(3号館7階、3716)									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	日 本 風 俗 史 (Japanese History of Manners and Customs)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	伊 藤 高 雄								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
1. 風 俗 学 と は 何 か を 理 解 す る。 2. 風 俗 の 歴 史 に つ い て、特 に 日 本 の 風 俗 に つ い て 共 に 学 び、考 え る。 3. 「風 俗」に 関 し て 主 体 的 に 考 え る 力 を 養 う。									
授 業 目 標 :									
日 本 の 風 俗 の 成 り 立 ち や そ の 基 本 的 に あ る 衣 食 住 を 理 解 し、日 本 の 風 俗 文 化 が 時 代 の 政 治 と い か な る 関 係 あ っ た か に つ い て、理 解 を 深 め る こ と を 目 標 と す る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス 風俗とは。日本の風俗の流れを学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
2	織物と染色・衣の風俗を学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
3	かぶりもの・衣の風俗を学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
4	年中行事の中の食・食の風俗を学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
5	住まいの風俗・住の風俗を学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
6	山の暮らしを学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
7	海の暮らしを学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
8	町の暮らしを学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
9	職人の世界を学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
10	学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		演習	
11	学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		演習	
12	学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		演習	
13	学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		演習	
14	学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		演習	
15	まとめ					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
なし。プリント配布。					授 業 時 に 指 示 す る。 『日本風俗史事典』弘文堂 『日本民俗学大辞典』吉川弘文館				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授 業 参 加 状 況 等 (20%)、コ メ ン ト ・ カ ー ド (30%)、発 表 内 容 ・ 問 題 に 対 す る 習 熟 度 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
予 習 ・ 復 習 を 行 う こ と。欠 席 し な い こ と が 大 前 提 と な り ま す。最 後 ま で 取 り 組 み ま し ょ う。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義 ・ 演 習
授 業 科 目 (英 文)	日 本 文 化 概 論 (Introduction to Japanese Culture)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	石 井 み ど り								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : おもに近現代の歴史をふりかえり、身近な話題をとりあげながら、日本人の心の一端を模索していきます。授業ではグループワークやディスカッション、プレゼンテーションを取り入れて、理解を深められるようにしています。									
授 業 目 標 : 日本人の心はどのように形成されてきたのでしょうか。日本人の心を探求する上で、日本文化を理解することは欠かせません。日本文化の知識を習得し、その背景にあるものは何か、理解を深めることを目的としています。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：日本文化とは何か		講義 90分	
2	日本人の名前と名前の由来					事前：名前の由来について 事後：名前の文化		講義 50分 発表40分	
3	おいしさを感じるオノマトペ					事前：オノマトペについて 事後：オノマトペの文化		講義 40分 グループワーク 50分	
4	「母の日」と「父の日」① 「母の日」のマーケティング					事前：「母の日」について 事後：「母の日」の歴史と文化		講義 40分 グループワーク 50分	
5	「母の日」と「父の日」② 「父の日」のマーケティング					事前：「父の日」について 事後：「父の日」の歴史と文化		講義 40分 グループワーク 50分	
6	音楽とは何か					事前：音楽を聴く 事後：音と音楽の文化		講義 50分 ディスカッション 40分	
7	家族と家庭料理					事前：大学生の家庭料理 事後：家庭料理の歴史と文化		講義60分 ディスカッション 30分	
8	水の文化					事前：水について 事後：水の文化		講義 60分 グループワーク 30分	
9	時の記念日					事前：時間の使い方について 事後：時と時間の違い		講義 60分 ディスカッション 30分	
10	クールジャパン ① アニメ 漫画 ゲーム					事前：アニメ、漫画、ゲーム 事後：アニメ、漫画、ゲーム		講義 30分 グループワーク 60分	
11	クールジャパン ② アニメ 漫画 ゲーム					事前：アニメ、漫画、ゲーム 事後：クールジャパンの文化		講義 30分 グループワーク 60分	
12	大学生の「日本文化」を理解する ①					事前：若者世代論 事後：若者世代論		講義 30分 発表 60分	
13	大学生の「日本文化」を理解する ②					事前：若者世代論 事後：若者世代論		講義 30分 発表 60分	
14	大学生の「日本文化」を理解する ③					事前：若者世代論 事後：若者世代論		講義 30分 発表60分	
15	まとめ					事前：日本文化とは何か 事後：大学生の「日本文化」		講義 90分	
教 本 : 資料を配布するので、教科書は指定しません。					参 考 文 献 : 適宜、指示します。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 授業参加状況等 (40%) 授業中の課題、定期試験 (60%) 等で総合評価します。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 文字だけで判断するのではなく、日本文化の本質を理解するよう心がけてください。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回の授業で教えます。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	日 本 文 化 研 究 (Japanese Culture Studies)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	安 倍 宰								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
この授業の目的は、とすれば観光やエゾチシズムにのみ目の回りがちな沖縄文化を当事者の視点から捉えてみることです。皆さんのほとんどが「遊びに行くところ」と考えているかもしれません。しかし、当地の生活実感から生活世界を考えるなら、本土とも微妙に異なる世界が出現します。多面から考えてみましょう。									
授 業 目 標 :									
ヒトが身体を通じて、どのように「世界」と関わっているのかを考える。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎						○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	沖縄文化の範囲					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
2	沖縄文化のステレオタイプと実際					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
3	沖縄文化のステレオタイプと実際 2					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
4	文化人類学からみた沖縄文化					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
5	沖縄の社会と文化					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
6	沖縄の社会と文化 2					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
7	始祖求心的文化					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
8	始祖求心的文化の現代版					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
9	民俗文化の創造					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
10	沖縄文化と「境界」					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
11	祖霊観と他界観					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
12	〈ニライカナイ〉の発想					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
13	沖縄と防衛問題					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
14	沖縄はパラダイスか					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
15	まとめと復習					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
使用しません					授業内で紹介する。たくさん読んでください。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (20%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (10%)、定 期 試 験 (70%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
私 達 が い か に 常 識 や 良 識 に と ら わ れ て い る か、心 を 真 っ 白 に す る 努 力 を し て み ま し ょ う。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	日 本 文 化 研 究 A (Japanese Culture Studies A)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	石 上 七 穂								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
1. 風 俗 学 と は な に か を 理 解 す る。									
2. 風 俗 の 歴 史 に つ い て 、 特 に 日 本 の 風 俗 史 に つ い て 共 に 学 び 、 考 え る 。									
3. 「 風 俗 」 に 関 し て 主 体 的 に 考 え る 力 を 養 う 。									
授 業 目 標 :									
日 本 の 風 俗 の 成 り 立 ち や そ の 基 本 的 な 衣 食 住 を 理 解 し 、 ま た 、 日 本 の 風 俗 文 化 や 政 治 と ど の よ う な 相 互 関 係 に あ っ た か に つ い て 理 解 を 深 め る こ と を 目 標 と す る 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 ( 最 重 要 に ◎ 、 重 要 に ○ 1 つ )									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 ( 詳 細 に 記 入 )					事 前 ・ 事 後 学 習 ( 学 習 課 題 )		授 業 形 態	
1	ガイダンス 風俗とは。日本風俗の流れを学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
2	(通史) 風俗学と風俗史について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
3	(古代) 古代人の生活について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
4	(古代) 古代人の産業について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
5	(中古) 平安時代の生活について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
6	(中古) 平安時代の信仰、陰陽師と加持祈祷について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
7	(中世) 禅とその文化について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
8	(近世) 近世の風俗と海外との交流について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
9	近現代における日本の風俗(衣食住の展開)について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
10	近代日本における風俗について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
11	風俗の伝統とモダニズムについて学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
12	学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
13	学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
14	学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
15	総括					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
なし。プリント配布。					授 業 時 に 指 示 す る 。				
					1. 『日本風俗史事典』日本風俗史学会編 弘文堂 竹内誠編著				
					2. 『江戸文化の見方』(角川選書)角川学芸出版 2010年 竹内誠編著				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。									
発 表 と レ ポ ー ト ( 5 0 % ) ・ 期 末 試 験 ( 5 0 % ) 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
予 習 ・ 復 習 を 行 う こ と 。 欠 席 し な い こ と が 大 前 提 と な り ま す 。 最 後 ま で 取 り 組 み ま し ょ う 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
木 曜 日 昼 休 み 。 総 合 研 究 セ ン タ ー ( 3 号 館 7 階 、 3 7 1 6 )									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	日 本 文 化 研 究 A (Japanese Culture Studies A)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	伊 藤 高 雄								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
1. 風 俗 学 と は 何 か を 理 解 す る。									
2. 風 俗 の 歴 史 に つ い て 、 特 に 日 本 の 風 俗 に つ い て 共 に 学 び 、 考 え る 。									
3. 「 風 俗 」 に 関 し て 主 体 的 に 考 え る 力 を 養 う 。									
授 業 目 標 :									
日 本 の 風 俗 の 成 り 立 ち や そ の 基 本 的 に あ る 衣 食 住 を 理 解 し 、 日 本 の 風 俗 文 化 が 時 代 の 政 治 と い か な る 関 係 あ っ た か に つ い て 、 理 解 を 深 め る こ と を 目 標 と す る 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 ( 最 重 要 に ◎ 、 重 要 に ○ 1 つ )									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 ( 詳 細 に 記 入 )					事 前 ・ 事 後 学 習 ( 学 習 課 題 )		授 業 形 態	
1	ガイダンス 風俗とは。日本の風俗の流れを学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
2	織物と染色					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
3	かぶりもの					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
4	年中行事の中の食					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
5	住まいの風俗					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
6	山の暮らし					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
7	海の暮らし					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
8	町の暮らし					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
9	職人の世界					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
10	学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		演習	
11	学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		演習	
12	学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		演習	
13	学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		演習	
14	学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		演習	
15	まとめ					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
教本： なし。プリント配布。					参考文献： 授業時に指示する。 『日本風俗史事典』弘文堂 『日本民俗学大辞典』吉川弘文館				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 発表とコメント・カード (50%)・レポート (50%)									
学生へのアドバイス： 予習・復習を行うこと。欠席しないことが大前提となります。最後まで取り組みましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	日 本 文 化 研 究 B (Japanese Culture Studies B)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	石 上 七 穂								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : (近 世 文 化) 1. 江 戸 学 と は 何 か を 理 解 す る。 2. 江 戸 の 歴 史 と 文 化 に つ い て 学 び , 考 え る。 3. 「江 戸」 に 関 し て 主 体 的 に 考 え る 力 を 養 う。									
授 業 目 標 : 江 戸 の 風 俗 ・ 生 活 を 伝 え る 『絵 本 江 戸 風 俗 往 来』『都 風 俗 化 粧 伝』 を 講 読 し , い わ ゆ る 「江 戸 学」 の 出 発 点 と な る 知 識 の 整 理 を 試 み る と と も に , 史 料 収 集 方 法 や 活 用 方 法 の 基 礎 力 を 養 う こ と を 目 標 と す る 。 ま た , 日 本 近 代 史 を 学 ぶ う え で 重 要 な 資 料 ・ 文 献 な ど の 紹 介 も 行 う。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、 重 要 に○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画 , 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 , 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス 江戸時代の文化について概説をする。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
2	江戸と上方について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
3	江戸の衣と住まいについて学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
4	江戸の食を学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
5	江戸の飢饉を知る。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
6	享保・寛政・天保の改革について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
7	江戸時代の交通について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
8	江戸時代の農業について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
9	江戸の年中行事について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
10	江戸の信仰、富士信仰について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
11	江戸の信仰、伊勢信仰について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
12	近世の宗教と学問 キリスト教について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
13	国学と国体について知る。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
14	江戸から明治へ、大政奉還について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
15	総括					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
教 本 : なし。プリント配布。					参 考 文 献 : 1. 石上七穂『日本の原点』マイナビ新書 2. 『江戸学事典』弘文堂				
成 績 評 価 の 方 法 , 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。 発 表 と レ ポ ー ト (50%) ・ 期 末 試 験 (50%)。 仔 細 は 授 業 時 に 明 示 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 予 習 ・ 復 習 を 行 う こ と 。 欠 席 を し な い こ と が 大 前 提 と な り ま す 。 最 後 ま で 取 り 組 み ま し ょ う 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 木 曜 日 昼 休 み 。 総 合 研 究 セ ン タ ー ( 3 号 館 7 階 , 3716)									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	日 本 文 化 研 究 B (Japanese Culture Studies B)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	伊 藤 高 雄								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : (近 世 文 化) 1. 江 戸 学 と は 何 か を 理 解 す る。 2. 江 戸 の 歴 史 と 文 化 に つ い て 学 び、考 え る。 3. 「江 戸」に 関 し て 主 体 的 に 考 え る 力 を 養 う。									
授 業 目 標 : 江 戸 の 風 俗 ・ 生 活 を 伝 え る 黄 表 紙 や 随 筆 な ど の 資 料 を 読 み、「江 戸 学」の 出 発 点 と な る 知 識 の 整 理 を す る と と も に、史 料 の 収 集 方 法 や 活 用 方 法 を 学 び、江 戸 文 化 に つ い て 語 れ る よ う に す る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス 江戸時代の文化について概説する。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
2	江戸と上方の文化について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
3	江戸時代の衣と住まいについて学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
4	江戸時代の食について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
5	江戸時代の饂飩について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
6	江戸時代の災害について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
7	江戸時代の交通について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
8	江戸時代の生業について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
9	江戸時代の年中行事について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
10	学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		演習	
11	学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		演習	
12	学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		演習	
13	学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		演習	
14	学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		演習	
15	まとめ					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
教 本 : なし。プリント配布。					参 考 文 献 : 『江戸学事典』弘文堂				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 授 業 参 加 状 況 等 (30%)、コ メ ン ト ・ カ ー ド の 提 出 (20%)、発 表 内 容 ・ 問 題 に 対 す る 習 熟 度 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 予 習 ・ 復 習 を 行 う こ と。欠 席 を し な い こ と が 大 前 提 と な り ま す。最 後 ま で 取 り 組 み ま し ょ う。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	日 本 文 化 史 (Japanese Culture)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	石 上 七 鞘								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 『古事記』に記された神話を対象として授業を行う。本文の的確な読み、解釈を行い、古代的な論理・信仰・習俗などを踏まえつつ、神話成立の背景や各神話の持つ意味、伝承者の心を捉える。									
授 業 目 標 : ・ 上代の文献を正確に読み、説明することができる。 ・ 注釈書を比較し、適切な解釈を行うことができる。 ・ 『古事記』の特質、研究について考察することができる。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	日本文学の発生、口承から書承へ					事前：シラバスを読む 事後：授業の復習、次回の予習		講義 90 分	
2	神とは					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 90 分	
3	古事記の概説					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 90 分	
4	高天の原はどこに					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、演習 45 分	
5	おのころ島					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、演習 45 分	
6	天皇の生まれ変わり					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、演習 45 分	
7	アエノコト					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、演習 45 分	
8	アマテラスの岩戸隠れ (中臣と忌部)					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、演習 45 分	
9	歴代天皇と雄略天皇					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、演習 45 分	
10	海幸・山幸					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、演習 45 分	
11	学生によるプレゼンテーション					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		演習 90 分	
12	学生によるプレゼンテーション					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		演習 90 分	
13	学生によるプレゼンテーション					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		演習 90 分	
14	学生によるプレゼンテーション					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		演習 90 分	
15	纏め					事前：授業内容の事前纏め 事後：纏めの振り返り		講義 90 分	
教 本 : なし、プリントを配布					参 考 文 献 : 石上七鞘著『日本の原点』マイナビ新書 石上七鞘著『古代伝承文芸序説』桜楓社				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 に 達 成 し た か を 評 価 す る。 授 業 参 加 状 況 等 (30%)、テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (20%)、定 期 試 験 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 予 習 ・ 復 習 を し て 休 ま ず に 出 席 す る こ と。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 木 曜 日 昼 休 み。総 合 研 究 セ ン タ ー (3 号 館 7 階、3716)									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	日本文化史 (Japanese Culture)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	伊藤 高雄								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 日本文化の全体像を見すえながら、具体的な文化事象を取り上げて、その本質を現代に位置付けたい。									
授業目標： ・日本文化を時代ごとに、説明することができる。 ・個別の日本文化を取り上げて説明することができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	日本文化を考える 日本文化概説					事前：シラバスを読む 事後：授業の復習、次回の予習		講義 90分	
2	古代の日本文化を考える I					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 90分	
3	古代の日本文化を考える II					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 90分	
4	中世の日本文化を考える I					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 90分	
5	中世の日本文化を考える II					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45分、 演習 45分	
6	近世の日本文化を考える I					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45分、 演習 45分	
7	近世の日本文化を考える II					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45分、 演習 45分	
8	近・現代の日本文化を考える I					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45分、 演習 45分	
9	近・現代の日本文化を考える II					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45分、 演習 45分	
10	学生の発表を行う					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		演習 90分	
11	学生の発表を行う					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		演習 90分	
12	学生の発表を行う					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		演習 90分	
13	学生の発表を行う					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		演習 90分	
14	学生の発表を行う					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		演習 90分	
15	まとめ					事前：授業内容の事前まとめ 事後：まとめの振り返り		演習 90分	
教本： なし、プリントを配布。					参考文献： 授業時に指示する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30%）、コメントカードの提出（20%）、発表内容、問題に対する習熟度（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： いろんな文化的な事柄に積極的に興味を持ち、他人の発表にも意見を言えるようにしよう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	日 本 文 学 (Japanese Literature)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	白 石 佳 和								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : この授業では、俳句の句会活動を行う。日本の伝統的な短詩型文学（和歌、俳句など）は、歌会、句会などに参加する形式に特徴があり、座の文学と呼ばれる。俳句の句会活動を通じて座の文学を体験し、歳時記などに表象される日本文化を楽しみながら身につける。									
授 業 目 標 : 他の参加者と相互にコメントしよい発想や表現技法を取り入れてともに成長できる。 自註活動や歳時記作成を通じて日本文化や自分のルーツの文化を自覚し表現できる。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態		
1	オリエンテーション 俳句の歴史と句会のやり方について学ぶ。				事前：俳句について調べる 事後：振り返りとまとめ		講義60分、グループワーク20分、 発表10分		
2	句会（投句、清記、選句、披講、講評）を行う。				事前：兼題の句を作ってくる 事後：自句に注をつける		投句・清記30分、 選句・披講30分、講評30分		
3	句会（投句、清記、選句、披講、講評）を行う。				事前：兼題の句を作ってくる 事後：自句に注をつける		投句・清記30分、 選句・披講30分、講評30分		
4	句会（投句、清記、選句、披講、講評）を行う。				事前：兼題の句を作ってくる 事後：自句に注をつける		投句・清記30分、 選句・披講30分、講評30分		
5	句会（投句、清記、選句、披講、講評）を行う。				事前：兼題の句を作ってくる 事後：自句に注をつける		投句・清記30分、 選句・披講30分、講評30分		
6	世界の俳句や歳時記を紹介し、歳時記や季語の役割について学ぶ。				事前：資料を読んでくる 事後：振り返りとまとめ		講義40分、グループワーク30分、 発表20分		
7	句会（投句、清記、選句、披講、講評）を行う。				事前：兼題の句を作ってくる 事後：自句に注をつける		投句・清記30分、 選句・披講30分、講評30分		
8	句会（投句、清記、選句、披講、講評）を行う。				事前：兼題の句を作ってくる 事後：自句に注をつける		投句・清記30分、 選句・披講30分、講評30分		
9	句会（投句、清記、選句、披講、講評）を行う。				事前：兼題の句を作ってくる 事後：自句に注をつける		投句・清記30分、 選句・披講30分、講評30分		
10	吟行を行う。				事前：なし 事後：自句に注をつける		吟行50分、 投句・清記・選句40分		
11	句会（投句、清記、選句、披講、講評）を行う。				事前：兼題の句を作ってくる 事後：自句に注をつける		投句・清記30分、 選句・披講30分、講評30分		
12	句会（投句、清記、選句、披講、講評）を行う。				事前：兼題の句を作ってくる 事後：自句に注をつける		投句・清記30分、 選句・披講30分、講評30分		
13	わたしの季語・わたしの歳時記作り1				句会（投句、清記、選句、披講、講評） を行う		作業説明20分、 歳時記作り60分、まとめ10分		
14	わたしの季語・わたしの歳時記作り2				事前：句稿と季語の整理 事後：原稿作成		作業説明20分、 歳時記作り60分、まとめ10分		
15	半期全体を振り返りまとめる。				事前：レポートのリライト 事後：レポート完成		レポート読み合い60分、 まとめ30分		
教 本 : 授業で紹介した歳時記を購入する。					参 考 文 献 : 授業で紹介する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 授業参加状況等（10%）、俳句創作（60%）、レポート「わたしの歳時記」（30%）等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 俳句を楽しみ、日本文化を身につける授業です。一緒に楽しく学びましょう。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	日 本 文 学 概 論 (Introduction to Japanese Literature)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	石 上 七 鞆								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>日本文学の生成過程とその変容の原動力について見極める。古典文学はどのように発生し、伝播し、波及したか作品に即して理解する。また古典文学が実際にどのように読まれてきたのかについて、『竹取物語』『伊勢物語』『源氏物語』『枕草子』『徒然草』『百人一首』といった古典を通して文学を考える。日本文学の理念と変遷を考え、日本の代表的な文学作品に触れながら、作品の構想と表現、作者と時代背景などを含めて、文学研究の方法と態度を養う。作品の背景に横たわる問題点を指摘しながら思索を深める訓練をする。作品を理解し、日本文化における文学の影響と、文学の果たした役割を理解する。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>日本文学（物語・随筆・和歌など）の概要を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本文学の形態や表現の特徴を概観し、深く読み進めるために必要な方法や基礎知識を習得する。</li> <li>2. 日本文学の生成と展開を把握し、日本文学の全体像を理解する。</li> <li>3. 各時代における日本文学の展開のダイナミズムが、いつ、どのようにして生まれ、どのように伝播、波及して現代に至ったかを、具体的な文学者や作品に即して深く理解する。</li> <li>4. 日本文学が、日本文化全体の中において果たしてきた役割を理解する。</li> </ol>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション、日本文学の領域について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
2	日本文学の発生と場（文学以前から文学へ、神と人）について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
3	日本文学の形態と様式について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
4	文学的発想とその流れについて学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
5	伝承・創作とその享受について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
6	構想と表現（言葉と心、主題と描写、作品とモデル、事実と虚構）について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
7	日本文学の環境 1、(歴史と社会)について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
8	日本文学の環境 2、(自然と風土)について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
9	日本文学の理念と変遷 1、上代文学の理念について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
10	日本文学の理念と変遷 2、中古文学の理念について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
11	日本文学の理念と変遷 3、中世文学の理念について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
12	日本文学の理念と変遷 4、近世文学の理念について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
13	日本文学の素材（自然・旅・離別）について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
14	日本文学と諸文化（国語史・宗教・風俗・民俗）について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
15	日本文学研究法のまとめ					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
なし。プリント配布。					<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 『日本の原点』石上七鞆著、マイナビ新書、¥830 (税抜き)</li> <li>2. 『日本文学史の基礎知識』秋山虔ほか著、有斐閣ブックス、¥2,520</li> <li>3. 『日本古典文学大系』(岩波書店)『日本古典文学全集』(小学館)</li> </ol>				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 平常点 (15%)、小テスト (15%)、授業内容への参加度 (10%)、試験 (60%) などで評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 予習・復習を行うこと。欠席をしないことが大前提となります。最後まで取り組みましょう。									
オ フ ィ ス ア フ タ ー : 木曜日昼休み。総合研究センター (3号館7階、3716)									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	日 本 文 学 概 論 (Introduction to Japanese Literature)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	伊 藤 高 雄								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 日 本 文 学 の 生 成 過 程 と そ の 変 容 の 原 動 力 に つ い て 見 極 め る 。 日 本 文 学 は ど の よ う に 発 生 し 、 伝 播 し 、 波 及 し た か 作 品 に 即 して 理 解 す る 。 具 体 的 に は 、 折 口 信 夫 『 国 学 概 論 』 を 読 み す す め つ つ 、 文 学 創 作 ( 短 歌 ・ 俳 句 ・ 連 句 な ど ) を 行 い な が ら 、 文 学 発 生 の 根 本 を 探 る 。									
授 業 目 標 : 日 本 文 学 の 概 要 を 理 解 す る 。 1. 日 本 文 学 の 形 態 や 表 現 の 特 徴 を 概 観 し 、 深 く 読 み 進 め る た め に 必 要 な 方 法 や 基 礎 知 識 を 習 得 す る 。 2. 日 本 文 学 の 生 成 と 展 開 を 把 握 し 、 日 本 文 学 の 全 体 像 を 理 解 す る 。 3. 各 時 代 に お け る 日 本 文 学 の 新 展 開 の ダイ ナ ミ ズ ム が 、 い つ 、 ど の よ う に し て 生 ま れ 、 ど の よ う に 伝 播 、 波 及 し て 現 代 に 至 っ た か を 、 具 体 的 な 文 学 者 や 作 品 に 即 して 深 く 理 解 す る 。 4. 日 本 文 学 が 、 日 本 文 化 全 体 の 中 に お い て 果 た し て 来 た 役 割 を 理 解 す る 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 ( 最 重 要 に ◎ 、 重 要 に ○ 1 つ )									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 ( 詳 細 に 記 入 )					事 前 ・ 事 後 学 習 ( 学 習 課 題 )		授 業 形 態	
1	オリエンテーション、日本文学の概念について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
2	日本文学の成立 I					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
3	日本文学の成立 II					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
4	日本文学の目的 I					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
5	日本文学の目的 II					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
6	解釈の成立 I					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
7	解釈の成立 II					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
8	文学としての日本文学 I					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		演習	
9	文学としての日本文学 II					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		演習	
10	日本文学を生み出す I					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		演習	
11	日本文学を生み出す II					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		演習	
12	日本文学を生み出す III					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		演習	
13	日本文学を生み出す IV					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		演習	
14	日本文学を生み出す V					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		演習	
15	まとめ					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
教 本 : なし。プリント配布。					参 考 文 献 : 授業時に指示する。				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 授 業 参 加 状 況 等 ( 20% ) 、 コ メ ン ト ・ カ ー ド 、 授 業 内 容 へ の 参 加 度 ( 30% ) 、 提 出 作 品 ( 50% ) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 予 習 ・ 復 習 を 行 う こ と 。 欠 席 を し な い こ と が 大 前 提 と な り ま す 。 最 後 ま で 取 り 組 み ま し ょ う 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	日本文学講読 (Reading of Japanese Literature)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	白石 佳和								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：「詩と散文：奥の細道を読む」</p> <p>日本の古典文学には、散文（物語、随筆など）と韻文（和歌など）が明確に分かれず入り混じっている作品が少なくない。この授業では日本の代表的古典作品である奥の細道を取り上げ、なぜ散文に歌が混ざっているのか、作品を読みながら検討する。</p>									
<p>授業目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・古典作品の講読の方法・技術を身につける。</li> <li>・本授業のテーマ（歌と散文の関係）について考察し、自分の問いと答えを導く。</li> </ul>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション 『奥の細道』について基礎知識を学ぶ。					事前：奥の細道の下調べ 事後：振り返りとまとめ		講義50分、グループワーク30分、 発表10分	
2	『奥の細道』旅立ちの場面の解釈・問題点について検討を行う。					事前：今回の場面の下読み 事後：振り返りとまとめ		講義30分、発表30分、 議論30分	
3	『奥の細道』旅立ちの場面の解釈・問題点について検討を行う。					事前：今回の場面の下読み 事後：振り返りとまとめ		講義30分、発表30分、 議論30分	
4	『奥の細道』平泉の場面の解釈・問題点について検討を行う。					事前：今回の場面の下読み 事後：振り返りとまとめ		講義30分、発表30分、 議論30分	
5	『奥の細道』平泉の場面の解釈・問題点について検討を行う。					事前：今回の場面の下読み 事後：振り返りとまとめ		講義30分、発表30分、 議論30分	
6	『奥の細道』最上川の場面の解釈・問題点について検討を行う。					事前：今回の場面の下読み 事後：振り返りとまとめ		講義30分、発表30分、 議論30分	
7	『奥の細道』最上川の場面の解釈・問題点について検討を行う。					事前：今回の場面の下読み 事後：振り返りとまとめ		講義50分、グループワーク30分、 発表10分	
8	『奥の細道』富山の場面の解釈・問題点について検討を行う。					事前：今回の場面の下読み 事後：振り返りとまとめ		講義30分、発表30分、 議論30分	
9	『奥の細道』富山の場面の解釈・問題点について検討を行う。					事前：今回の場面の下読み 事後：振り返りとまとめ		講義30分、発表30分、 議論30分	
10	『奥の細道』加賀の場面の解釈・問題点について検討を行う。					事前：今回の場面の下読み 事後：振り返りとまとめ		講義30分、発表30分、 議論30分	
11	『奥の細道』加賀の場面の解釈・問題点について検討を行う。					事前：今回の場面の下読み 事後：振り返りとまとめ		講義30分、発表30分、 議論30分	
12	本授業のテーマに沿って学生がプレゼンテーションを行う。1					事前：発表準備 事後：振り返りとまとめ		発表30分、議論60分	
13	本授業のテーマに沿って学生がプレゼンテーションを行う。2					事前：発表準備 事後：振り返りとまとめ		発表30分、議論60分	
14	本授業のテーマに沿って学生がプレゼンテーションを行う。3					事前：発表準備 事後：振り返りとまとめ		発表30分、議論60分	
15	半期全体を振り返りまとめる。					事前：レポートの下書き 事後：レポートの完成		レポート読み合い60分、 まとめ30分	
教本： プリントを配布する。					参考文献： 授業で紹介する。				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>授業参加状況等（20%）、発表（40%）、レポート・論文（40%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>日本を代表する古典に触れ、味わいましょう。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	日本文学史 (Japanese Literary History)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	石上 七鞘								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 物語の発生からその展開について解説し、作品と作品を生み出した人間、それを取り囲む社会との関係を歴史的に考察する。講義のほか、学生の研究発表の形式を採る。									
授業目標： 日本文学史に関する基礎的知識を時代別と系統別の両方から理念をふまえて理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	日本文学の発生、祭式と祝詞。「神観念」を考える。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
2	古代文学、神話と歴史。「言霊」「他界観」「語り部」を考える。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
3	古代文学、記紀歌謡と和歌。「まこと」（直、清、明）「ますらをぶり」を考える。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
4	中古文学、「たをやめぶり」「雅」を考える。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
5	中古文学「あはれ」「をかし」「王朝女流文学」を考える。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
6	中古文学「たけ高し」「とは白し」「余情」「艶」を考える。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
7	中世文学「幽玄」「有心」「無心」「わび」「枯淡」を考える。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
8	近世文学「さび」「軽み」「いき」「粋」「通」「野暮」「をかしみ」を考える。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
9	系統別文学史「史書」「物語」「草子」「読本」「勸善懲惡」を考える。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
10	系統別文学史「説話」「小説」を考える。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
11	系統別文学史「和歌」「連歌」「俳諧」を考える。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
12	系統別文学史「日記」「紀行」と学生のプレゼンを行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
13	系統別文学史「随筆」「評論」と学生のプレゼンを行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
14	系統別文学史「芸能」と学生のプレゼンを行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
15	学生のプレゼンを行う。 まとめ					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
教本： なし、プリント配布					参考文献： 『日本の原点』石上七鞘著 マイナビ新書 ¥873				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト（15%） 授業への参加度（25%） 試験（60%）。									
学生へのアドバイス： 予習・復習を行うこと。欠席をしないことが大前提となります。最後まで取り組みましょう。									
オフィスアワー： 木曜日昼休み。総合研究センター（3号館7階、3716）									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	日本文学史 (Japanese Literary History)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	伊藤 高雄								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 日本文学の発生からその展開について解説し、作品と作品を生み出した人間、それを取り囲む社会との関係を歴史的に考察する。講義のほか、学生の研究発表の形式を採る。									
授業目標： 日本文学史に関する基礎的知識の習得と、発生論的なものの見方を養う。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	日本文学の発生、祭式と祝詞、寿詞。神観念について考える。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
2	古代文学、神話と歴史。言霊、他界観、語部について考える。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
3	古代文学、記紀歌謡と和歌。まこと（直・清・明）ますらをぶりを考える。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
4	中古文学、たをやめぶり、雅びについて考える。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
5	中古文学、あはれ、をかし、王朝の女房文化について考える。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
6	中古文学、たけたかし、とほしろし、余情などを考える。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
7	中世文学、幽玄、わび・さび、無常観について考える。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
8	近世文学、粋、通、野暮、軽みについて考える。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
9	系統別文学史、歴史書、物語、草子、読本などについて考える。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
10	系統別文学史、説話、小説を考える。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
11	学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		演習	
12	学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		演習	
13	学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		演習	
14	学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		演習	
15	まとめ					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
教本： なし。プリント配布。					参考文献： 各社の国語便覧。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（20%）、コメント・カードの提出（30%）、発表内容・問題に対する習熟度（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 予習・復習を行うこと。欠席をしないことが大前提となります。最後まで取り組みましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	乳 児 保 育 I (Childcare of Infants I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	石 橋 優 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
乳児保育の意義・目的と歴史の変換および役割について理解する。乳児の発達と保育について学び、必要な保育や保護者・保育者間、他機関等、関係機関との協働・連携について学ぶ。そして、乳児保育の理論や知識・技術の基本を理解する。具体的な事例を紹介しつつ、乳児保育を担当する保育者の役割を理解する。									
授 業 目 標 :									
1. 乳児保育の意義・目的と歴史の返還及び役割等について理解する。									
2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。									
3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。									
4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。									
※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭に置いた保育を示す。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 ( 最 重 要 に ◎ 、 重 要 に ○ 1 つ )									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎						○			
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 ( 詳 細 に 記 入 )					事 前 ・ 事 後 学 習 ( 学 習 課 題 )		授 業 形 態	
1	シラバスの説明と確認 乳児保育とは 乳児保育の目的と意義 乳児保育の歴史の変換					事前：シラバスの下読みをする 事後：乳児保育の役割の復習		講義50分、乳児保育の自分の目標発表40分	
2	乳児保育を取り巻く社会的環境 乳児保育の役割と機能 乳児保育における養護と教育					事前：乳児保育の意義を下読み 事後：乳児保育の意義の復習		講義50分、自分の意見を発表40分	
3	乳児保育が営まれる多様な場 保育所における乳児保育やその他の保育事業など					事前：乳児保育の目的を調べる 事後：講義内容について再確認		講義50分、自分の意見を発表40分	
4	0歳児の発育・発達と保育 0歳児の発育と発達 0歳児の保育における援助と配慮					事前：保育所等を調べておく 事後：講義内容について再確認		講義50分、自分の意見発表40分	
5	1歳児の発育・発達と保育 1歳児の発育と発達 1歳児の保育における援助と配慮					事前：保育所等を調べておく 事後：レポートの再確認をする		DVD鑑賞30分、話し合30分、レポート30分	
6	2歳児の発育・発達と保育 2歳児の発育と発達 2歳児の保育における援助と配慮					事前：乳児保育の現状を下調べ 事後：レポートの再確認をする		DVD鑑賞30分、話し合30分、レポート30分	
7	移行期の子どもへの関わり 2歳児クラスに在籍する3歳児集団形成への配慮 移行期の環境的配慮					事前：乳児保育の現状を下調べ 事後：レポートの再確認をする		DVD鑑賞30分、話し合30分、レポート30分	
8	乳児保育における連携・協働 職員間、保護者、地域や諸機関との連携・協働					事前：乳児保育の現状を下調べ 事後：各グループのまとめ		講義40分、グループ討議30分、発表20分	
9	乳児保育における基本的な生活の援助 基本的な生活の援助 乳児保育に適した環境					事前：資料で予習 事後：講義内容の再確認		講義50分、グループ討議20分、発表20分	
10	乳児保育における健康支援 健康面への配慮・援助 配慮を必要とする子どもへの対応					事前：資料等で確認しておく 事後：講義内容の再確認		講義50分、グループ討議20分、発表20分	
11	乳児保育における衛生・安全 衛生管理と配慮 事故防止と安全対策 災害対策と危機管理					事前：資料等で確認しておく 事後：グループ討議の反省		講義50分、グループ討議20分、発表20分	
12	乳児保育における生活と遊びの実際 0歳児の保育の1日 1歳児の保育の1日 2歳児の保育の1日					事前：資料等で確認しておく 事後：グループ討議の反省		講義50分、グループ討議20分、発表20分	
13	乳児保育における計画と評価 長期的な指導計画と短期的同計画 など					事前：資料で予習 事後：グループ討議の反省		講義30分、演習60分	
14	多様性をめざす乳児保育 保育ニーズの多様化 SDGsから考える					事前：資料で予習 事後：多様性の復習		講義60分、グループで検討30分	
15	乳児保育の基本から応用へ 子どもと保育者との愛着関係 子どもの主体性と自己の育ち					事前：資料で予習 事後：乳児保育のまとめ		講義60分、個人の反省30分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
乳児保育 I・II 中山書店					保育所保育指針 厚生労働省編 フレーベル館				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。 授 業 参 加 状 況 等 ( 40% ) 、 小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト ・ 発 表 等 ( 30% ) 、 定 期 試 験 ( 30% ) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : こ れ からの 社会 における 乳 児 保 育 の あり 方 について 考 え ます 。 グ ル ープ ワ ー ク や 個 別 で 課 題 に 取 り 組 み 、 授 業 内 容 の 理 解 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	乳児保育Ⅱ (Childcare of Infants Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	石橋 優子								
履 修 条 件	前提科目	乳児保育Ⅰ							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>乳児保育の歴史、今後の課題について学び、保育の普遍的理論と現代における乳児保育のニーズをとらえ、現代に即した保育のありようを考察し理解する。また、3歳未満児の発育・発達過程や特性及び、養護及び教育の一体性を踏まえた援助や配慮、関わりの基本的な考え方について理解する。そして、3歳未満児の生活や遊びと保育の方法及び環境を踏まえた乳児保育における計画の作成について理解する。</p>									
<p>授業目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 3歳未満児の発育・発達過程や特性を踏まえた援助やかかわりの基本的な考え方について理解する。</li> <li>2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。</li> <li>3. 乳児保育における配慮の実践について、具体的に理解する。</li> <li>4. 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。</li> </ol> <p>※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	シラバスの説明と確認 生活の援助 食事編 乳児期の栄養/離乳食と幼児食					事前：シラバスの下読みをする 事後：講義内容の再確認		講義50分、乳児保育の自分の目標発表40分	
2	生活の援助 排泄編 排泄機能とおむつ交換 /排泄の自立					事前：生活の援助の下読み 事後：講義内容の再確認		講義50分、自分の意見を発表40分	
3	生活の援助 睡眠編 一日の生活リズムと睡眠 午睡環境					事前：生活の援助の下読み 事後：講義内容の再確認		講義50分、自分の意見を発表40分	
4	生活の援助 着脱編 衣服の機能と着脱援助 着脱の自立					事前：生活の援助の下読み 事後：講義内容の再確認		演習50分、自分の意見を発表40分	
5	生活の援助 清潔編 沐浴と清拭 生活習慣の始まりと援助					事前：生活の援助の下読み 事後：講義内容の再確認		DVD鑑賞30分、話合30分、レポート30分	
6	体を動かす遊び 室内遊び 戸外遊び					事前：体を動かす遊びの下調べ 事後：講義内容の再確認		DVD鑑賞30分、話合30分、レポート30分	
7	人とかかわる遊び 大人との遊び 子ども同士の遊び					事前：人とかかわる遊びの下調べ 事後：講義内容の再確認		DVD鑑賞30分、話合30分、レポート30分	
8	物とかかわる遊び 遊具やおもちゃを用いた遊び 児童文化財との触れ合い					事前：物とかかわる遊びの下調べ 事後：各グループのまとめ		講義30分、文化財調べ60分	
9	物とかかわる遊び 遊具やおもちゃを用いた遊び 児童文化財との触れ合い					事前：物とかかわる遊びの下調べ 事後：各グループのまとめ		講義30分、文化財調べ60分	
10	物とかかわる遊び 遊具やおもちゃを用いた遊び 児童文化財との触れ合い					事前：資料等で確認する 事後：各グループで発表		おもちゃ作りをし、発表できるように検討	
11	物とかかわる遊び 遊具やおもちゃを用いた遊び 児童文化財との触れ合い					事前：物とかかわる遊びの確認 事後：各グループで発表		おもちゃ作りをし、発表できるように検討	
12	物とかかわる遊び 遊具やおもちゃを用いた遊び 児童文化財との触れ合い					事前：物とかかわる遊びの確認 事後：具体的に確認しておく		おもちゃ作りをし、発表できるように検討	
13	物とかかわる遊び 遊具やおもちゃを用いた遊び 児童文化財との触れ合い					事前：物とかかわる遊びの確認 事後：発表できるものを作る		おもちゃ作りをし、発表できるように検討	
14	物とかかわる遊び 遊具やおもちゃを用いた遊び 児童文化財との触れ合い					事前：物とかかわる遊びの確認 事後：指導計画のまとめ		おもちゃ作りと発表できるように検討	
15	物とかかわる遊び 遊具やおもちゃを用いた遊び 児童文化財との触れ合い					事前：発表できるように準備 事後：指導計画のまとめと反省		グループや個人発表30分、演習と反省会60分	
<p>教本：</p> <p>乳児保育Ⅰ・Ⅱ 中山書店</p>					<p>参考文献：</p> <p>保育所保育指針 厚生労働省編 フレーベル館</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>授業参加状況等（40%）、小テスト・レポート・発表等（30%）、定期試験（30%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>これからの社会における乳児保育のあり方について考えます。実践力を付けるために演習や発表を取り入れた授業内容になっています。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	人 間 関 係 (子 童 と 生 活) (Personal Relationships (Children and Their Life))						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	大 崎 利 紀 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>子ども同士、子どもと保育者関わり等社会性を発達させる上で欠かせない人間関係の在り方を理解することを目的とする。人間関係を成立させる基本的ルールとその伝え方を学ぶ。また、子どもの自主性の尊重とその促し方、集団生活との関わりも取り上げる。授業形態は、レポート発表やグループ討論など主体的に取り組むような工夫をする。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>1. 幼児期に人との関わりを育むために必要な知識や技能について理解する  2. 幼保小連携認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針、幼稚園教育要領に基づき、領域としての「人間関係」の目的、内容、内容の取扱いを理解する  3. 子どもの遊びと生活を人間関係でとらえ、社会性を育む視野を広げる</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	科目の概要・目標を理解し、見通しを持つ 保育の基本についての講義から理解を深める					事前：シラバスを読む 事後：授業内容の復習		講義70分 振り返り20分	
2	幼保小連携認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針、幼稚園教育要領を読んで「人間関係」のねらいと内容を理解する					事前：保育所保育指針等を読む 事後：授業内容の復習		講義60分 ワーク・振り返り30分	
3	人間関係の発達の道筋を理解する① 新生児の能力や人への関心、母親との関わりについて理解する					事前：テキスト第2章の指定した場所を読む 事後：授業の内容の復習		講義60分 ワーク・振り返り30分	
4	人間関係の発達の道筋を理解する② 0歳児から2歳児の「人間関係」は保育士や友達を中心に育まれることを理解する					事前：テキスト第2章の指定した場所を読む 事後：授業の内容の復習		講義60分 ワーク・振り返り30分	
5	人間関係の発達の道筋を理解する③ 3歳児から5歳児の「人間関係」は集団としての関わりを中心に育まれることを理解する					事前：テキスト第3章の指定した場所を読む 事後：授業の内容の整理、復習		講義60分 ワーク・振り返り30分	
6	人間関係の基盤となる愛着形成の理論を理解し、親の役割・行為を学ぶ					事前：テキスト第2章の指定した場所を読む 事後：授業の内容の整理、復習		講義50分 グループワーク40分	
7	人間関係で重要な自己主張と自己抑制の育ちを支えるために、子どもを観察する、援助するための方法を理解する					事前：テキスト第7章第3節を読む 事後：授業の内容の整理、復習		講義60分 ワーク・振り返り30分	
8	子ども同士の関わりの中で思いやりのある行動や遊びの中などで育つ社会性の発達を促す方法を理解する					事前：集団遊びを考える 事後：授業の内容の整理、復習		講義30分 ワーク・振り返り60分	
9	集団の中でよりよい人間関係のために必要となる道徳性や規範意識の芽生えをどのようにとらえ、援助していくかを理解する					事前：テキスト第7章第4節を読む 事後：授業の内容の整理、復習		講義60分 ワーク・振り返り30分	
10	領域「人間関係」の保育実践のための教材研究と指導案作成の方法を学び、指導案を作成する					事前：資料を読む 事後：授業内容の整理、復習		演習90分	
11	作成した指導案をもとに模擬授業を実践し、教材の価値や保育士の援助等についての討議から視野を広げる					事前：資料を読む 事後：授業内容の整理、復習		講義30分 グループワーク60分	
12	友達との関わりが難しい子どもの特徴を理解し、個や状況に応じた支援の方法をまとめ、事例を検討する					事前：資料を読む 事後：授業内容の整理、復習		講義30分 グループワーク60分	
13	園での異年齢児との活動や、地域の人々と関わること、自然環境との関わることで育つ社会性について具体的に考える					事前：指定した場所を読む 事後：授業の内容の整理、復習		講義30分 グループワーク60分	
14	領域「人間関係」と他の領域との関係について理解する					事前：テキスト第1章第7節を読む 事後：授業の内容の整理、復習		講義60分 ワーク・振り返り30分	
15	人間関係育成の観点から、幼小連携の課題をレポートにする					事前：テキスト第1章第5節を読む 事後：レポートにまとめる		講義30分 ワーク・振り返り60分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
必要に応じて資料を配布します					「幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領」				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 の 達 成 度、レ ポ ー ト、定 期 試 験 を 総 合 的 に 評 価 す る 授 業 参 加 状 況 等 (25%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (25%)、定 期 試 験 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 幼 児 期 の 人 間 関 係 は 人 の 生 き 方 の 基 礎 に な る の で、専 門 知 識 を 深 め て い き ま し ょ う。シ ラ バ ス の 内 容 は 履 修 学 生 の 理 解 度 な ど に よ り 変 更 も あ り ま す。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	認 知 情 報 演 習 (Seminar on Cognitive Information)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	牧 裕 夫								
履 修 条 件	前 提 科 目	認 知 心 理 学							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
認 知 心 理 学 での 学 び を 演 習 形 式 で 展 開、講 義 の 部 分 は 1/3 ぐ ら い、み な さ ん の 個 性 あ る 発 表 か ら 演 習 形 式 で 進 め る。高 度 な パ フ ォ ー マ ン ス へ の 貢 献 を 目 指 す 認 知 心 理 学 で あ る が、特 に M. ボ ラ ン ニ ー の 暗 黙 知 か ら 「創 発」の 発 想 を メ ン バ ー 間 で 共 有 し た い。									
授 業 目 標 :									
1. 認 知 心 理 学 での 知 り よ り、参 加 者 各 位 の 日 常 生 活 や 未 来 と の 関 連 と し て 理 解 や 関 心 が 深 め た い。									
2. 参 加 学 生 自 身 の ア ピ ー ル ポ イ ン ト を 「創 発」と の 関 連 か ら 発 表 し、メ ン バ ー と の デ ィ ス カ ッ シ ョ ン を 通 し て 拡 大 を 図 る こ と。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			○			◎			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	授 業 の 進 め 方 ・ 内 容 に 関 し た ガ イ ダ ン ス (認 知 科 学 と し て 特 に 状 況 論 心 理 学 の 発 想 を 振 り 返 る)					事 前 : シ ラ バ ス の 精 査 事 後 : シ ラ バ ス の 確 認		講 義 90 分	
2	認 知 心 理 学 授 業 等 での 振 り 返 り (ア フ ォ ー ダ ン ス、正 統 的 周 辺 参 加、ヴ ィ ゴ ツ キ ー 最 近 接 領 域 等)					事 前 : 認 知 心 理 学 と の 接 点 事 後 : 高 度 技 能 へ の 心 理 学		講 義 90 分	
3	本 演 習 展 開 での 枠 組 み ① : ア フ ォ ー ダ ン ス か ら ク ラ ウ ド 活 用 の 視 座					事 前 : ク ラ ウ ド 体 験 の 所 在 を 確 認 事 後 : ネ ッ ト 環 境 と ク ラ ウ ド		講 義 90 分	
4	本 演 習 展 開 での 枠 組 み ② : 個 人 or コ ミ ュ ニ テ ィ での ク ラ ウ ド 活 用					事 前 : 特 に 地 域 での ク ラ ウ ド 活 用 事 後 : 身 近 な コ ミ ュ ニ テ ィ 活 動		講 義 60 分 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分	
5	本 演 習 展 開 での 枠 組 み ③ : 高 度 な 技 能 ・ 学 習 (認 知 心 理 学 での 知 見 を 「創 発」と し て 各 位 の 発 表 内 容 を 方 向 づ け る)					事 前 : ア フ ォ ー ダ ン ス ま と め 事 後 : 発 表 に 備 え た 情 報 収 集		講 義 60 分 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分	
6	参 加 メ ン バ ー グ ル ー プ に あ る 「創 発」体 験 に つ い て 心 理 臨 床 と し て 共 有 す る。					事 前 : 資 料 の 予 習 事 後 : 情 報 収 集 と 発 表 資 料 の 準 備		講 義 60 分 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分	
7	参 加 メ ン バ ー グ ル ー プ に あ る 「創 発」体 験 に つ い て 企 業 マ ー ケ テ ィ ン グ と し て 共 有 す る。					事 前 : 資 料 の 予 習 事 後 : 振 り 返 り と レ ポ ー ト 準 備		講 義 30 分 参 加 者 の 発 表 60 分	
8	「創 発」の 関 連 と し て ポ ス ト モ ダ ン、レ ヴ ィ ー ス ト ロ ー ス (野 生 の 思 考) プ リ コ ラ ー ジ ュ を 体 験 す る。					事 前 : 資 料 の 予 習 事 後 : 振 り 返 り と レ ポ ー ト 準 備		講 義 30 分 コ ラ ー ジ ュ 制 作 体 験 60 分	
9	当 該 回 か ら、参 加 者 か ら の 発 表 を 中 心 に セ ッ シ ョ ン を 進 め る (発 表 へ の オ リ エ ン テ ー シ ョ ン)。					事 前 : コ ラ ー ジ ュ 作 品 の 振 り 返 り 事 後 : 振 り 返 り と レ ポ ー ト 作 成		講 義 30 分 参 加 者 の 発 表 60 分	
10~14	参 加 者 か ら の 発 表 を 中 心 に セ ッ シ ョ ン を 進 め る (第 1 回 ~ 第 5 回)					事 前 : 資 料 の 予 習 事 後 : 振 り 返 り と レ ポ ー ト 作 成		講 義 30 分 参 加 者 の 発 表 60 分	
15	演 習 全 体 か ら 何 を 得 た の か 総 合 的 に デ ィ ス カ ッ シ ョ ン を 行 う。					事 前 : 資 料 の 予 習 事 後 : 振 り 返 り と レ ポ ー ト 作 成		講 義 30 分 振 り 返 り (60 分)	
教 本 :									
授 業 で 随 時 配 布 す る。					参 考 文 献 :				
『創 造 す る マ ー ケ テ ィ ン グ』2008 井 関 ・ 山 川 他 日 経 B P 企 画									
『ギ ブ ソ ン 心 理 学 の 核 心』2002 境 ・ 曾 我 ・ 小 松 勁 草 書 房									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る									
授 業 参 加 状 況 等 (40%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (60%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
参 加 学 生 個 々 の 将 来 の 進 路 と の 関 連 か ら、自 身 の ア ピ ー ル ポ イ ン ト を 明 確 に し て ゆ き た い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	認知情報論 (Cognitive Informatics)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	牧 裕夫								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>20 世紀での心理学の反省点としてそのレベルが乳幼児の学習・技能とされた。ドジャーズ大谷や欧米で活躍するサッカー、バスケットのアスリート達のパフォーマンス、企業にて高度な業績がどのような過程で成り立っているのか、状況論心理学の可能性を共有する。</p> <p>以下の授業内容に示した項目等から参加学生それぞれがテーマを選びレポートを作成、その発表を含めて本授業を進める。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>1. 認知心理学からの展開として状況論心理学に関心をもつ。</p> <p>2. 高度な技能に関する一連の理論と私達の日常との関連を知る。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（認知心理学の学びと日常体験との接点を探る）					事前：シラバスの精査 事後：シラバスの確認		講義60分、小レポート・ディスカッション30分	
2	還元主義の学習心理学、その批判としてのゲシュタルト心理学、そして認知心理学が登場している。					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義60分、小レポート・ディスカッション30分	
3	フレーム問題の指摘から（人工知能研究からやがて私達のようなロボットが登場するのだろうか。）					事前：鉄腕アトムから人工知能 事後：その挫折の理由		講義60分、小レポート・ディスカッション30分	
4	フレーム問題の挫折からの展開（身体性と試行錯誤するロボット、人工知能の新たな取り組み等）					事前：マクド商品がなかったら 事後：学習への新たな試み		講義60分、小レポート・ディスカッション30分	
5	現状でもアンドロイドでもロボット動作のものまね芸人コロッケらしさから抜け出せないマイクロスリップの柔軟性。					事前：コロッケ動作のロボット 事後：共感とマクロスリップ		講義60分、小レポート・ディスカッション30分	
6	米ソ冷戦時代での心理学として高次学習への論争が行われていた。ブルーナー仮説等教育心理学での取り組み。					事前：高度技能への黎明期 事後：教育分野での取り組み		講義60分、小レポート・ディスカッション30分	
7	今日で注目されている L. ヴィゴツキー vs J. ピアジェ論争 ピアジェの認知発達への批判からの高度な知性への展開					事前：早逝したヴィゴツキー 事後：関係性から高度実践		講義60分、小レポート・ディスカッション30分	
8	ピアジェ vs ヴィゴツキー論争としての「独り言」論争 ヴィゴツキー理論→「精神間から精神内へ」等					事前：今日見直さる試み 事後：アフォーダンスへ		講義60分、小レポート・ディスカッション30分	
9	心理学3つの柱から4つ目の柱「状況論心理学」 計画と実践「アルゴリズム vs ヒューリスティックス」から					事前：日常でのリアリティ 事後：ヒューリスティックス		講義60分、小レポート・ディスカッション30分	
10	G. G. ギブソンのアフォーダンスへの核心 「情報は環境側に無限に潜在、環境側から情報が提供される」					事前：心理学の第4の柱 事後：状況論心理学の登場		講義60分、小レポート・ディスカッション30分	
11	状況論心理学としてアフォーダンス (G. G. ギブソン) 戦闘機の訓練システム開発から正統的周辺参加 (J. レイブ) 等へ					事前：状況論の拡大 事後：ポストモダン野生の思考		講義60分、小レポート・ディスカッション30分	
12	J. レイブの正統的周辺参加、環境のインターフェイス化（大谷にとってバットは身体の一部）					事前：職人芸の技能習得 事後：正統的周辺参加		講義60分、小レポート・ディスカッション30分	
13	G. ベイトソンのイルカの学習 ダブルバインドからの創造へ・創造性の所在					事前：イルカの学習Ⅲ 事後：病理と創造性の狭間		講義60分、小レポート・ディスカッション30分	
14	受講者にある正統的周辺参加、アフォーダンスな体験を振り返り、本学習による知識の定着を図る。					事前：既に各位は体験している 事後：どう活かすか、この知見		講義60分、小レポート・ディスカッション30分	
15	まとめ					事前：確認事項を持ち寄る 事後：受講者の知として共有		講義60分、小レポート・ディスカッション30分	
<p>教本：</p> <p>講義者からその都度、資料を配布する。</p>					<p>参考文献：</p> <p>「ギブソン心理学の核心」境・小松・曾我 勁草書房 「鉄腕アトムと晋平君—ロボット研究の深化と自閉症児の発達」渡部 ミネルヴァ書房</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>授業参加状況等（30%）、小レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>私達自身が日々当たり前様々なパフォーマンスをしているが、それらのメカニズムに気づくこと、そこに創造性の所在があり「生きている」という感触がある。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	認 知 心 理 学 (Cognitive Psychology)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	牧 裕 夫								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
認 知 心 理 学 は 人 間 の 記 憶 や イ メ ー ジ に 対 す る 研 究 分 野 で あり、心 理 学 の 中 で も 広 範 な 領 域 と 接 点 を 持 つ ホ ッ ト な 分 野 で あり。同 じ 物 理 的 な 世 界 に 住 ん で いる 私 た ち は、本 当 に 同 じ 世 界 に 住 ん で いる の だ ろ う か。「不 思 議 の 国」へ の 入 り 口 は ど こ に で も あり の か も。									
授 業 目 標 :									
1. 心 理 学 史 で の 認 知 心 理 学 の 役 割、今 日 の 展 開 を 知 る。 2. 社 会 心 理 学、臨 床 心 理 学 を は じ め 他 領 域 に て 認 知 心 理 学 で の 知 見 活 用 の 実 態 に 関 心 を 持 つ。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態	
1	心 理 学 の 中 の 認 知 心 理 学 (学 習 心 理 学 と 認 知 心 理 学)				事 前 : シ ラ バ ス の 精 査 事 後 : シ ラ バ ス の 確 認			講 義 60 分、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分	
2	認 知 心 理 学 の 歴 史 的 背 景 (1956 年 の 認 知 革 命)				事 前 : 鉄 腕 ア ト ム 出 現 す る ? 事 後 : 1956 年 で の 出 来 事			講 義 60 分、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分	
3	基 本 的 な 記 憶 研 究 ① (記 憶 貯 蔵 庫 の 所 在)				事 前 : 忘 れ て 得 し て いる こ と は な に ? 事 後 : 忘 却 が あり 人 類 は 存 続 し た			講 義 60 分、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分	
4	基 本 的 な 記 憶 研 究 ② (短 期 記 憶 か ら ワ ー キ ン グ メ モ リ ー へ)				事 前 : 沢 山 の こ と を 覚 え る 工 夫 事 後 : 今 日 の 知 能 検 査 の 方 向 性			講 義 60 分、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分	
5	記 憶 貯 蔵 庫 の 存 在 と 機 能 (情 報 の 転 送 : リ ハ ー サ ル)				事 前 : 乳 児 は 興 行 き を 知 覚 で き る か 事 後 : 興 行 き 近 く も 日 々 の 経 験 か ら			講 義 60 分、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分	
6	記 憶 貯 蔵 庫 の 存 在 と 機 能 (記 憶 の 体 制 化、記 憶 術 等)				事 前 : ど れ だ け 覚 え て い ら れ る 事 後 : 単 純 記 憶 容 量 の 実 験			講 義 60 分、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分	
7	視 覚 イ メ ー ジ の 所 在 (絵 的 な イ メ ー ジ の 存 在 : 二 重 コ ー ド 説)				事 前 : 絵 的 な イ メ ー ジ で 役 立 つ こ と 事 後 : 絵 的 な の 存 在 へ の 実 験 方 法			講 義 60 分、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分	
8	視 覚 イ メ ー ジ の 所 在 (知 覚 と イ メ ー ジ の 同 型 性)				事 前 : 実 際 の リ ン ゴ と イ メ ー ジ は 同 じ 事 後 : 実 験 で ど う 取 り 組 ん で いる の か			講 義 60 分、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分	
9	パ タ ー ン 認 知 (特 徴 分 析 型 : 伏 魔 殿 モ デ ル 等)				事 前 : な ぜ 文 字 を 認 識 で き る の か 事 後 : 伏 魔 殿 の 中 で の 無 意 識 な 働 き			講 義 60 分、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分	
10	パ タ ー ン 認 知 (視 覚 的 探 索 課 題、選 択 的 注 意 等)				事 前 : 雑 踏 の 中 で 知 人 を 発 見 事 後 : 聖 徳 太 子 に な れ ない 私 達			講 義 60 分、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分	
11	パ タ ー ン 認 知 (視 覚 的 断 崖 課 題 か ら ア フ ォ ー ダ ン ス 理 論 へ)				事 前 : 大 谷 の バ ッ ト は 身 体 の 一 部 事 後 : 高 度 な 学 習、ア フ ォ ー ダ ン ス			講 義 60 分、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分	
12	ア フ ォ ー ダ ン ス か ら の 今 日 的 展 開				事 前 : 環 境 の 身 体 化 例 を 探 索 事 後 : 環 境 の 中 に 無 限 大 の 情 報 あり			講 義 60 分、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分	
13	心 理 臨 床 で の イ メ ー ジ 活 用 ① マ イ ン ド フ ル ネ ス				事 前 : 癒 し で の イ メ ー ジ の 活 用 事 後 : 流 行 の マ イ ン ド フ ル ネ ス 実 践			講 義 60 分、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分	
14	心 理 臨 床 で の イ メ ー ジ 活 用 ② 絵 的 な イ メ ー ジ の 活 用				事 前 : イ メ ー ジ で 想 起 し た 成 功 体 験 例 事 後 : ゾ ー ン に 入 っ た と は …			講 義 60 分、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分	
15	認 知 心 理 学 で 紹 介 し た 内 容 の 確 認 と 振 り 返 り				事 前 : 印 象 に 残 っ た こ と を 報 告 事 後 : 「君 た ち は ど う い き る の か」			講 義 60 分、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
授 業 で 随 時 配 布 す る。					認 知 心 理 学 へ の 招 待 (サイ エ ン ス 社) 情 報 処 理 心 理 学 I ・ II ・ III (サイ エ ン ス 社) 授 業 で 随 時 配 布 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 授 業 参 加 状 況 等 (20%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (20%)、学 期 末 で の テ ス ト (60%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 行 動 分 析 学 と 同 じ よ う に 基 礎 心 理 学 的 に 他 領 域 の エ ビ デ ン ス 研 究 を 拡 展、ま た 人 工 知 能 関 連 と の 関 連 と し て も 注 目 さ れ て いる。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	ネットワーク技術 (Network Technology)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	秋 廣 誠								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : インターネットのしくみを支える通信技術と、データベース (DB) の基礎的な知識について講義し、PC 操作と AI による支援等を通して理解を深める。SNS の背後にある DB の構成を想定し、そのトイモデルを検討し、ネットワークを介して実際に操作する。このことで、我々を取り囲む様々なネットワークサービスにおける諸概念を、深く理解する。									
授 業 目 標 : インターネットのしくみを支える通信技術について説明できる。ネットワーク技術に関わる専門性の高い課題解決を、AI の活用を通して検討できる。SNS の仕組みについて、DB の役割も踏まえ説明できる。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス					事前：なし 事後：リアクションペーパーを記入する		講義	
2	http について理解する。Web ブラウザが、ZOZO タウンの Web ページを構成していく様子を観察する。					事前：PC に適宜ソフトウェアをインストールする 事後：リアクションペーパーを記入する		講義 60 分 演習 30 分	
3	http、マークアップ言語、マシンリーダブル、ヒューマンリーダブル、Web デザイン、について理解する。					事前：TCP について予習する 事後：リアクションペーパーを記入する		講義 60 分 演習 30 分	
4	TCP について概説する。					事前：資料を下読みする 事後：リアクションペーパーを記入する		講義 60 分 演習 30 分	
5	TCP の働きについて、processing によるデモを通して体験し、理解を深める。					事前：資料を下読みする 事後：リアクションペーパーを記入する		講義 60 分 演習 30 分	
6	IP について、WiFi ルーターの設定を通して、理解する。					事前：資料を下読みする 事後：リアクションペーパーを記入する		講義 60 分 演習 30 分	
7	ドメインと DNS について概説する。					事前：資料を下読みする 事後：リアクションペーパーを記入する		講義 60 分 演習 30 分	
8	Get / Post / Cookie について概説する。動的に生成される HTML を観察し、理解を深める。					事前：資料を下読みする 事後：リアクションペーパーを記入する		講義 60 分 演習 30 分	
9	Web に関する、広告、アフィリエイト、ドメイン、サーバーに関する知識を深める。					事前：RDBMS について予習する 事後：リアクションペーパーを記入する		講義 60 分 演習 30 分	
10	リレーショナル・データベース (RDBMS) による情報管理について概説する。					事前：資料を下読みする 事後：リアクションペーパーを記入する		講義 60 分 演習 30 分	
11	Instagram や X (旧 Twitter) といった SNS の背後にある DB 関連の仕組みを想定する。					事前：資料を下読みする 事後：リアクションペーパーを記入する		講義 60 分 演習 30 分	
12	SNS のトイモデルを RDBMS で構築する。アカウント、ツイート、フォローはどのように「表」で表せるか。					事前：資料を下読みする 事後：リアクションペーパーを記入する		講義 60 分 演習 30 分	
13	ネットワークを通して各自でアカウントを作成し、ツイートする。					事前：資料を下読みする 事後：リアクションペーパーを記入する		講義 60 分 演習 30 分	
14	トイモデルを利用するためのユーザーインターフェースの実装を試みる、そのために、AI の支援を受けながら Python web フレームワークを構築する。					事前：Python フレームワークについて予習する 事後：リアクションペーパーを記入する		講義 60 分 演習 30 分	
15	Python web フレームワークによる<SNS トイアプリ>を各自で体験し、評価する。					事前：資料を下読みする 事後：リアクションペーパーを記入する		講義	
教 本 : 講義内で指示する					参 考 文 献 : 講義内で指示する				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : リアクションペーパーと授業態度 (40%)、小テスト (60%) で評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : ノートパソコンが必要である。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

ね

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	ネットワーク構築論 (Network Construction Theory)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	井上 明也								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	ノートパソコンを用意すること							
<b>授業概要：</b> ネットワーク技術は、すべてのITシステムの実現において必須の要素技術となっている。本講義では、インターネットに関する基礎技術を中心に、コンピュータネットワーク全般に関する技術概要を網羅的に学ぶ。また、最新技術動向と共に、ネットワーク構築の基礎理論の概要についても学ぶ。									
<b>授業目標：</b> ネットワークに関連する基礎的な用語と最新の技術動向を把握するとともに、ネットワーク構築に用いる基礎理論を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	シラバスの説明、ネットワーク関連技術の変遷 ネットワーク技術の歴史、情報通信サービスの概要					事前：シラバスを読む 事後：資料を復習する		講 義	
2	ネットワーク技術の概要 ネットワークの分類、各ネットワークの概念と用語					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
3	プロトコルの基礎 OSI 参照モデル、プロトコル構造、国際標準化動向					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
4	インターネットの基礎技術 1 TCP/IP の基礎、アドレス情報の基礎					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
5	インターネットの基礎技術 2 IP アドレスの変換方式、DHCP、名前解決 DNS					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
6	インターネットの基礎技術 3 アドレス情報の設定法、ネットワーク・コマンドの利用方法					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
7	インターネットの基礎技術 4 WWW、電子メール関連技術					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
8	IP ネットワーク技術の基礎 1 ルーティング技術、ネットワーク機器とその変遷					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
9	IP ネットワーク技術の基礎 2 インターネットアクセス技術、IT サービスのビジネス形態					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
10	IP ネットワーク技術の基礎 3 サービス品質、SLA、VPN 関連サービスとその技術					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
11	モバイルコミュニケーション技術の基礎 モバイル通信 NW、ワイヤレスアクセス方式と無線 LAN 規格					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
12	ネットワーク構築の基礎理論 1 ネットワーク評価のためのネットワーク理論					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
13	ネットワーク構築の基礎理論 2 即時系トラヒック理論の基礎とネットワーク設計法への適用					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
14	ネットワーク構築の基礎理論 3 待時系トラヒック理論の基礎とネットワーク設計法への適用					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
15	最新技術動向の概説と期末試験					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
教 本： 指定しない					参 考 文 献： 講義内で指示する				
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 小テスト・レポート等（100％）で総合評価する。									
<b>学生へのアドバイス：</b> 授業に必ず出席する、疑問点は授業中に質問して解消することを心掛けてください。									
<b>オフィスアワー：</b> 初回講義日に伝える。									